

ヒータ、エア コンディショナ

エア コンディショナ15-1

SRSエアバッグ システム-タイプ II (ヒータ、エア コンディショナを整備するにあたって)

この車にはタイプによりSRSエアバッグ システムが採用されている。SRSエアバッグ システムの整備作業を正しく、安全に行うための情報は、本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」にすべて記載してある。

なお、SRSエアバッグ システム以外の整備作業を行うにあたり、SRSエアバッグ システム関連で注意を必要とする項目については、目次に*マークで示してある。

したがって、これらの項目の整備作業は本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」のワイヤリング図等を参照し、SRSエアバッグ システムに影響を与えないよう注意して行うこと。

注意

- SRSエアバッグ システムの整備は必ずホンダ販売店で行う。
- SRSエアバッグ システムについて、正しい整備作業を行わなかった場合、または不適正な部品の交換作業を行ったりするとエアバッグが誤作動をしてけがをすることがあるので、十分注意をすること。
- SRSエアバッグ システムのすべてのワイヤ ハーネスには、黄色のカバーを施してあり、他のシステムと区別をしています。これらは、ステアリング コラム、インストルメント パネル内に配線されている。したがって、下記のような場合はSRSエアバッグ システムに影響を与える恐れがあるので、必ずホンダ販売店に相談すること。

～ハンドル付近の修理。

{ ハンドル中央部にはSRSユニット(衝撃感知用センサ)、インフレーター等が取付けられているため、強い衝撃を与えないよう充分注意して下さい。 }

～インストルメント パネル右裏側及びヒューズ ボックス付近のワイヤ ハーネス関連の修理。


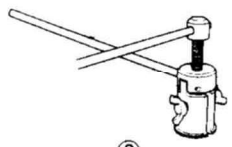





エア コンディショナ

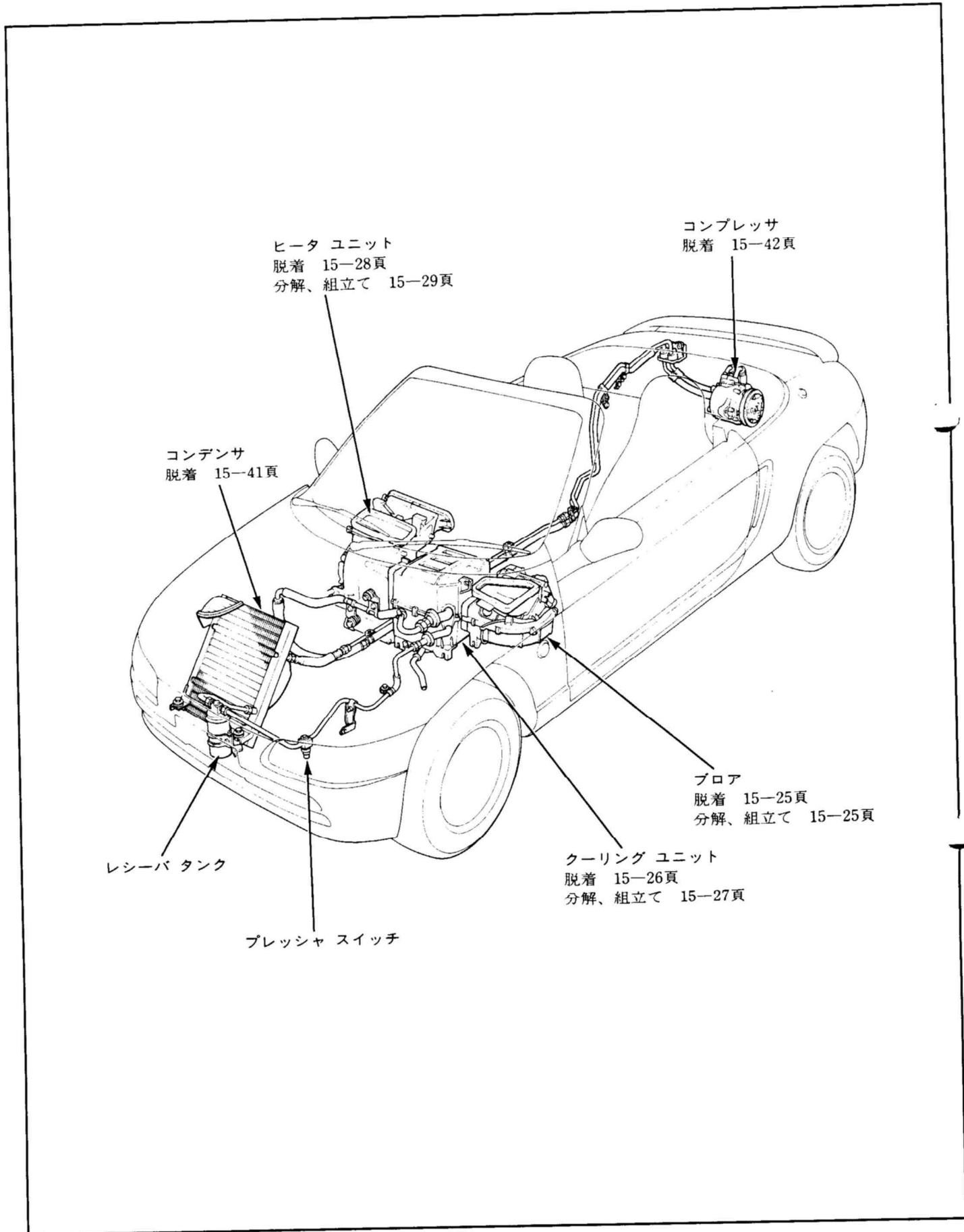
構成図.....	15-2	コントロール ワイヤ	
ワイヤリング図.....	15-3	調整、交換.....	15-32
モード毎のダンパ位置.....	15-4	サーモ スタット点検	15-33
回路図.....	15-6	リレー点検.....	15-33
故障診断		ファン スイッチ点検	15-34
故障診断表.....	15-7	冷房サイクルの整備上の注意事項.....	15-35
ブロー モータ	15-8	締付けトルク一覧.....	15-36
コンデンサ ファン	15-11	性能テスト.....	15-37
内外気切換えモータ.....	15-14	冷媒圧力の異常.....	15-38
モード モータ	15-16	異音チェック.....	15-39
コンプレッサ.....	15-18	冷媒の抜きかた.....	15-40
コンプレッサ/コンデンサ ファン.....	15-20	コンデンサ	
ヒータ コントロール スイッチ		脱着.....	15-41
脱着、点検.....	15-24	コンプレッサ	
ブロー		脱着.....	15-42
脱着、分解、組立て.....	15-25	クラッチの点検.....	15-44
クーリング ユニット		クラッチの取外し.....	15-45
脱着.....	15-26	クラッチの取付け.....	15-47
分解、組立て.....	15-27	シャフト シールの取外し	15-48
*ヒータ ユニット		シャフト シールの取付け	15-50
脱着.....	15-28	シャフト ベアリングの交換	15-51
分解、組立て.....	15-29	サーマル プロテクタの交換	15-52
内外気切換えモータ		真空引き.....	15-53
点検、脱着.....	15-30	リーク テスト	15-54
モード モータ		冷媒の封入.....	15-55
点検、脱着.....	15-31		

専用工具

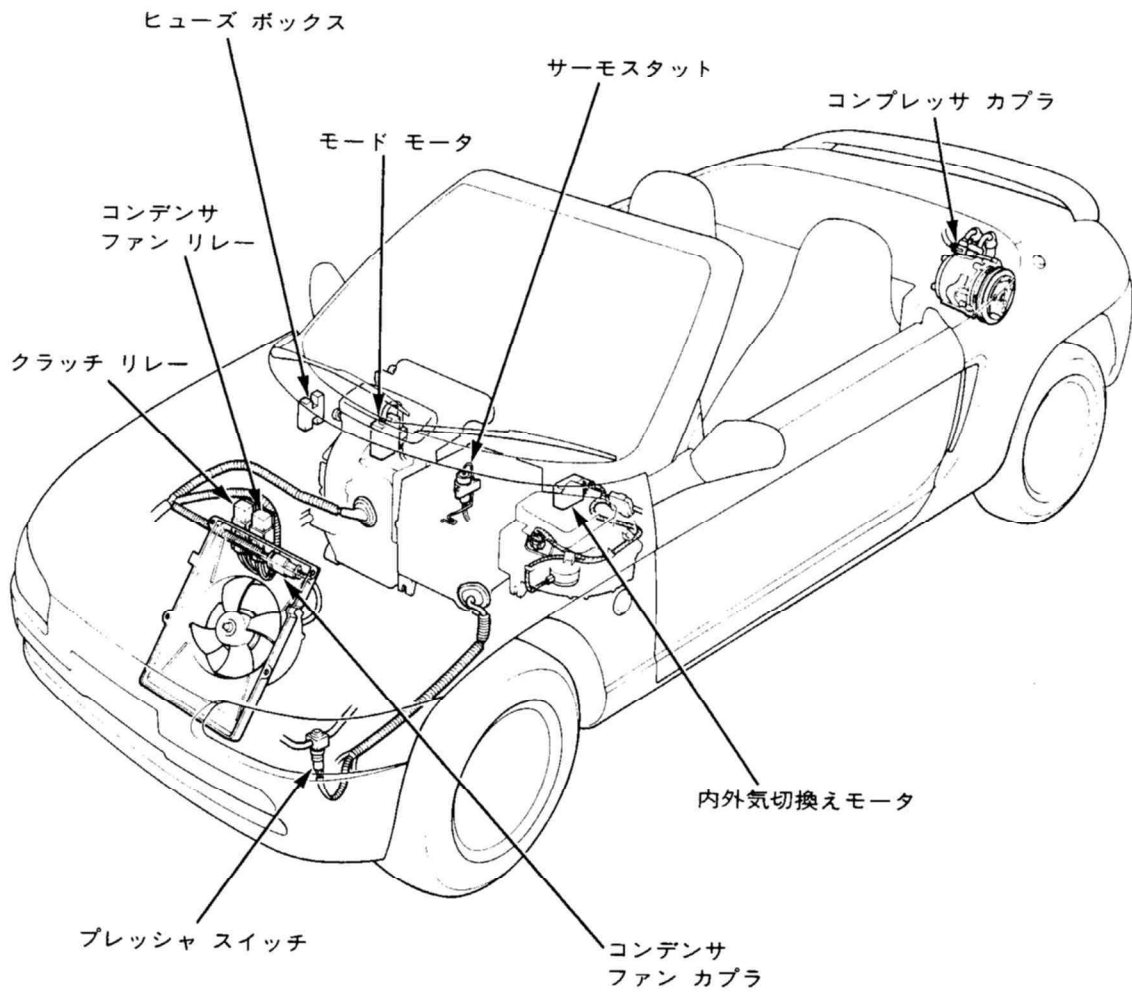
No.	工具番号	工具名称	備考
①	07HAB-SF40200	アマチュア ホルダ	
②	07HAC-SF40100	ロータ プーリ リムーバ	クラッチ ロータ
③	07HAD-SF40100	インサート ドライバ	シャフト ベアリング
④	07JAC-SH20200	シャフト ベアリング リムーバ	
⑤	07JAC-SH20300	シャフト リング リムーバ	クラッチ ロータ、フロント ポス

構成図

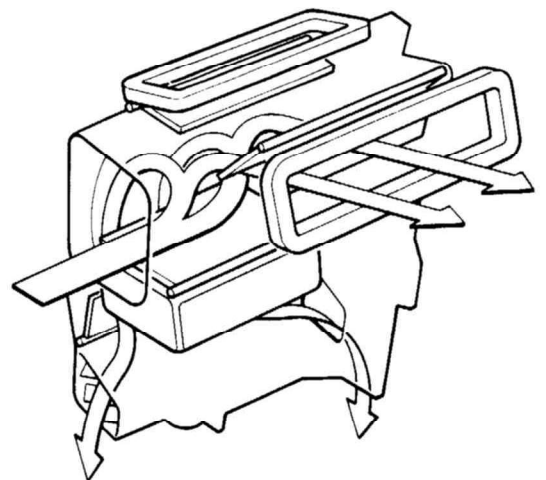
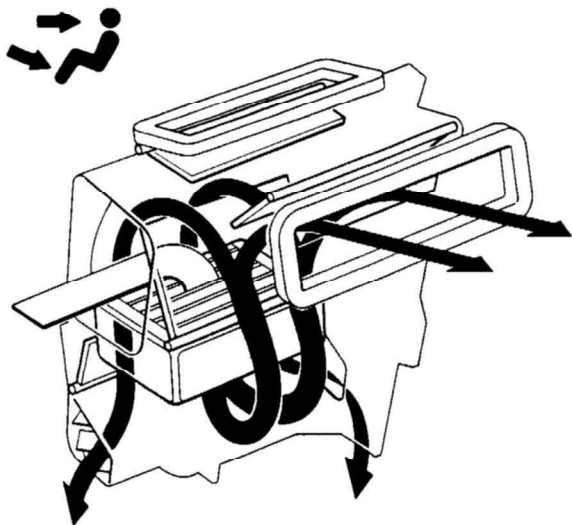
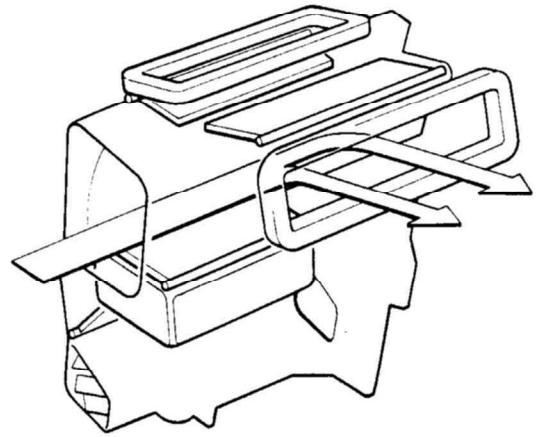
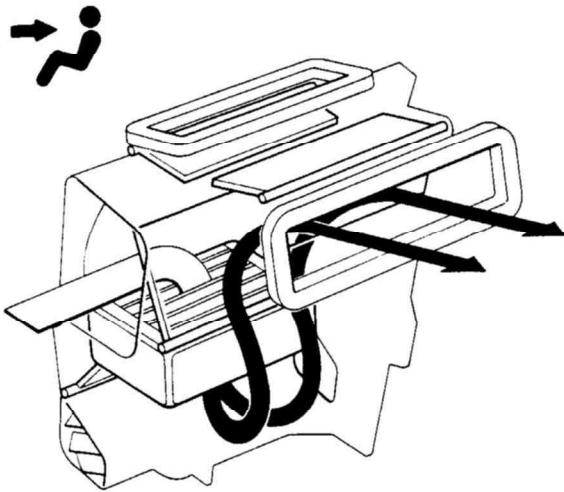


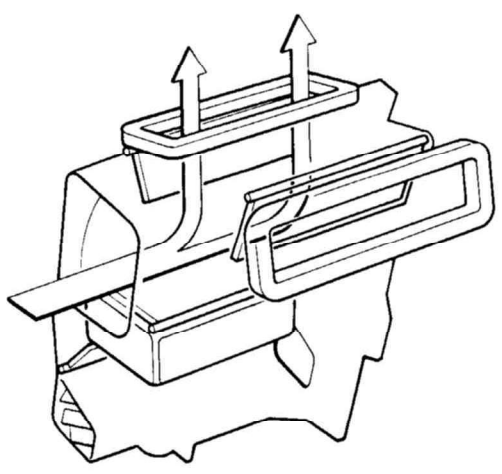
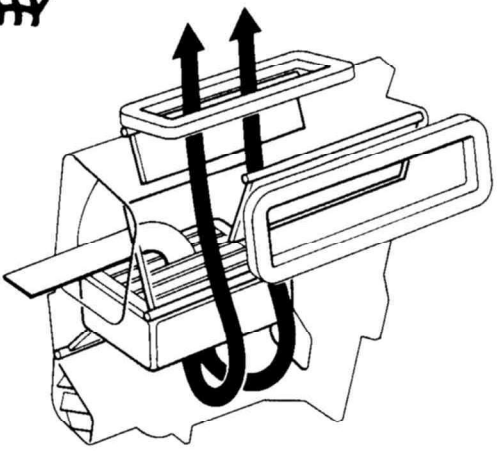
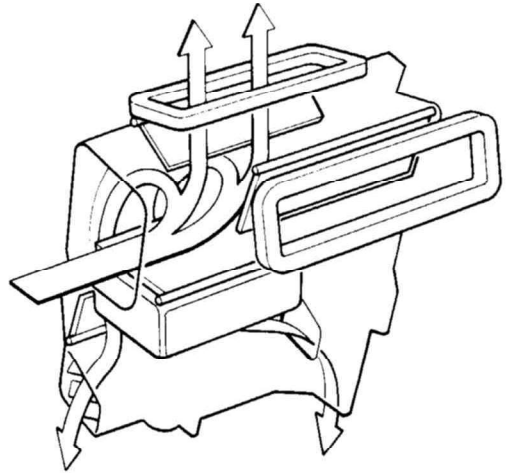
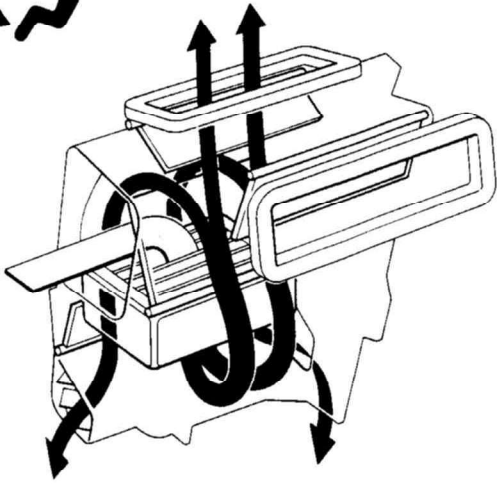
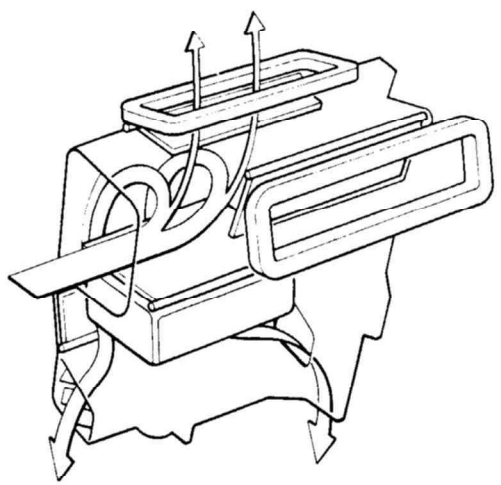
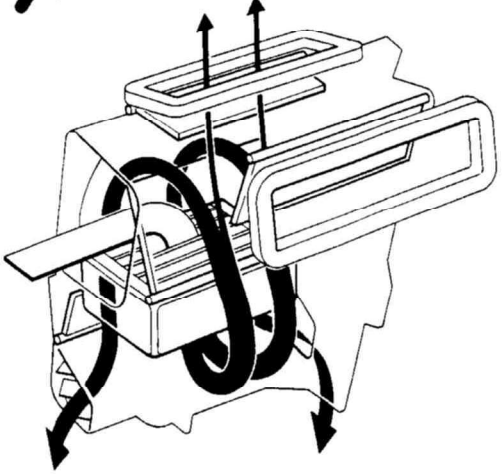
ワイヤリング図



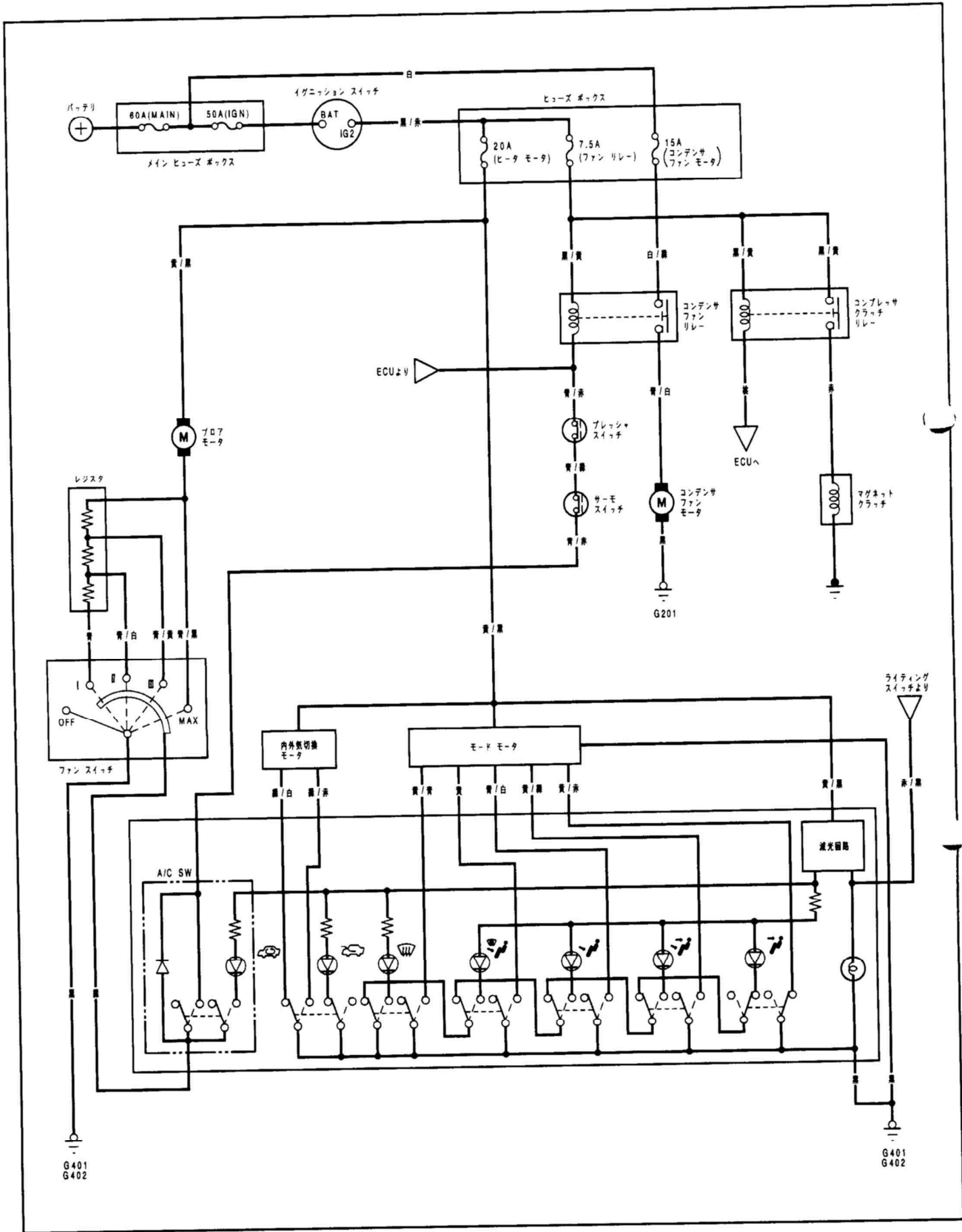
モート毎のダンパ位置

➡ H
➡ C





回路図



故障診断

故障診断表

配管、冷媒圧力の異常、異音時は、15-39~40頁を参照すること。
電氣的故障は、下記表を参照。

故障状況	参照頁
ブローモータが全く作動しない	15-8
ブローモータが変速しない	15-10
コンデンサファンが回らない	15-11
内外気が切り換わらない	15-14
吹き出し口が切り換わらない	15-16
コンプレッサが作動しない	15-18
A/Cシステムが全く作動しない (コンデンサファン、コンプレッサ)	15-20

故障診断

故障診断チャート

フロア モータが全く作動しない

20A(ヒータ モータ)ヒューズ
の点検をする

正常か
YES
NO

ヒューズの不良

フロア モータから2Pカプ
ラを外す

2Pカブラの黄/黒端子とボ
ディ アース間の電圧を測定
する

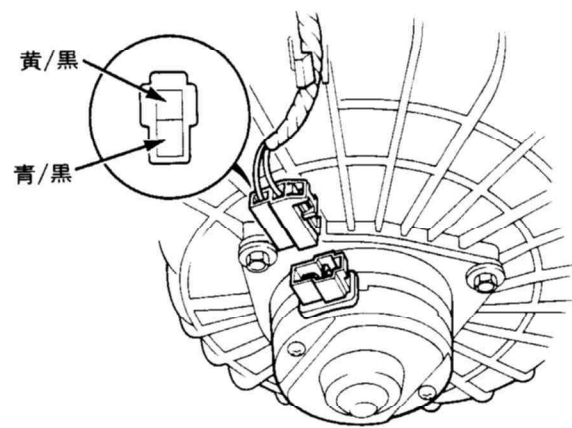
イグニッション スイッチを
ONにする

バッテリー電圧か
YES
NO

黄/黒ハーネスの不良

フロア モータに2Pカブラ
を再接続する

ハーネス側より見て



15-8 頁より

ブロア モータ 2Pカプラの青/黒端子をボディ アースする

ブロア モータが作動するか

NO

ブロア モータの不良

YES

ファン スイッチの 6Pカプラを外す

ファン スイッチの 6Pカプラの青/黒端子をボディ アースする

ブロア モータが作動するか

NO

ブロア モータとファン スイッチ間の青/黒ハーネスの不良

YES

イグニッション スイッチをOFFにする

ファン スイッチの 6Pカプラの黒端子とボディ アース間の導通を確認する

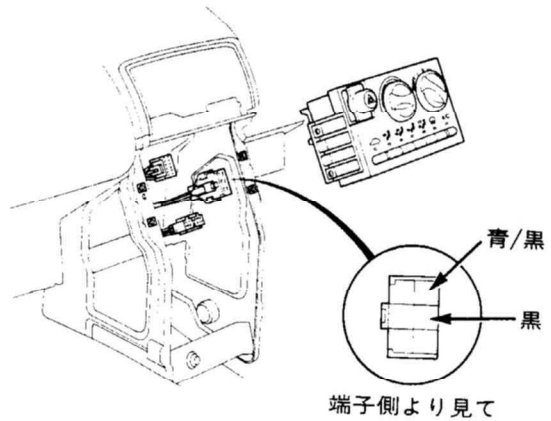
導通はあるか

NO

黒ハーネスの不良、又はアース不良

YES

ファン スイッチの不良



故障診断

故障診断チャート

ブロー モータが変速しない
(MAXポジションのみ作動する)

レジスタの4Pカプラを外す

レジスタの①端子と④端子間の導通を確認する

導通があるか

NO → レジスタの不良

YES

レジスタの4Pカプラを再接続する

ファン スイッチの6Pカプラを外す

イグニッション スイッチをONにする

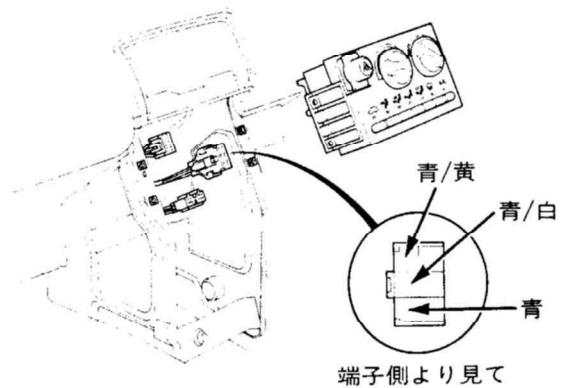
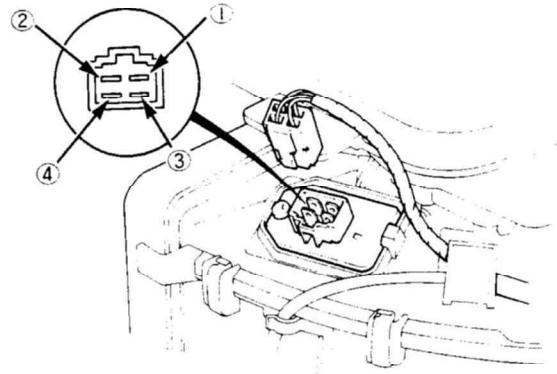
青、青/白、青/黄端子とボディアース間の電圧を測定する

バッテリー電圧か

NO → 電圧のないハーネスの不良

YES

ファン スイッチの不良



コンデンサ ファンが回らない

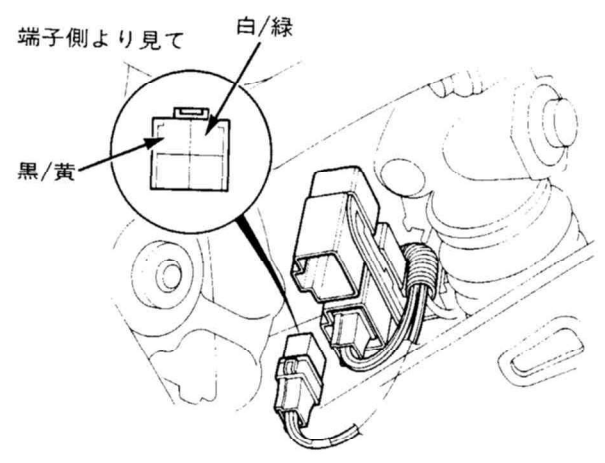
15A(コンデンサ ファン モーター)ヒューズを点検する

正常か
YES
NO — ヒューズの不良

コンデンサ ファン リレー 4 Pカプラを外す

4 Pカプラの白/緑端子とボディアース間の電圧を測定する

バッテリー電圧か
YES
NO — ヒューズ ボックスとコンデンサ ファン リレー間の白/緑ハーネスの不良



15-12頁へ

故障診断

故障診断チャート

15-11頁より

イグニッション スイッチを
ONにする

4 Pカブラの黒/黄端子とボ
ディ アース間の電圧を測定
する

バッテリー電圧か

NO

ヒューズ ボックスとコンデンサ
ファン リレー間の黒/黄ハーネス
の不良

YES

イグニッション スイッチを
OFFにする

コンデンサ ファン リレー単
体の点検をする (15-33頁)

正常か

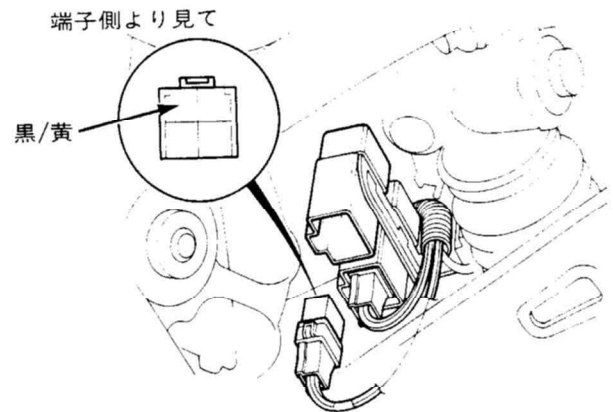
NO

コンデンサ ファン リレーの不良

YES

コンデンサ ファン リレー 4
Pカブラを再接続する

15-13頁へ



15-12頁より

コンデンサ ファン モータ 2
Pカプラを外す

イグニッション スイッチ、
A/Cスイッチ、ファン スイッ
チをONにする

車体側 2 Pカプラの青/白端
子とボディ アース間の電圧
を測定する

バッテリー電圧か

NO

コンデンサ ファン リレーとコン
デンサ ファン モータ間の青/白
ハーネスの不良

YES

イグニッション スイッチを
OFFにする

コンデンサ ファン モータ 2
Pカプラの青/白端子にバッ
テリーの⊕、黒端子にバッテリ
の⊖を接続し、ファン モータ
の作動を確認する

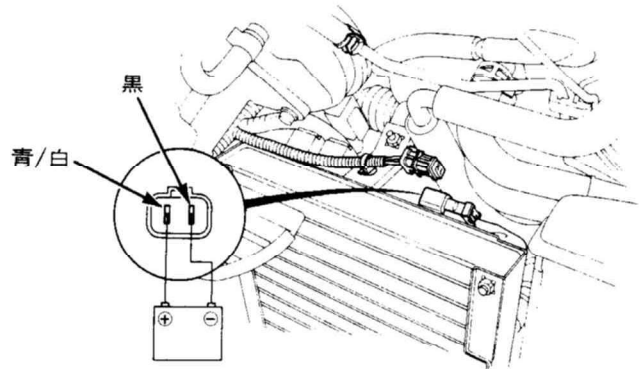
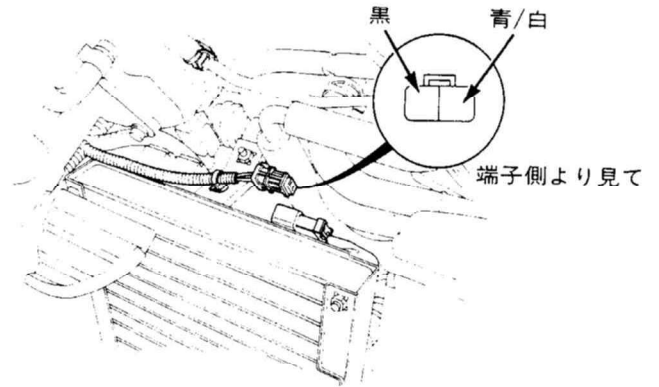
作動するか

NO

コンデンサ ファン モータの不良

YES

コンデンサ ファン モータとボディ
アース間の黒ハーネスの不良、
又はアースの不良



故障診断

故障診断チャート

内外気が切換わらないを外す

内外気切換えモータの4Pカブラを外す

イグニッションスイッチをONにする

4Pカブラの黄/黒端子とボディアース間の電圧を測定する

バッテリー電圧か

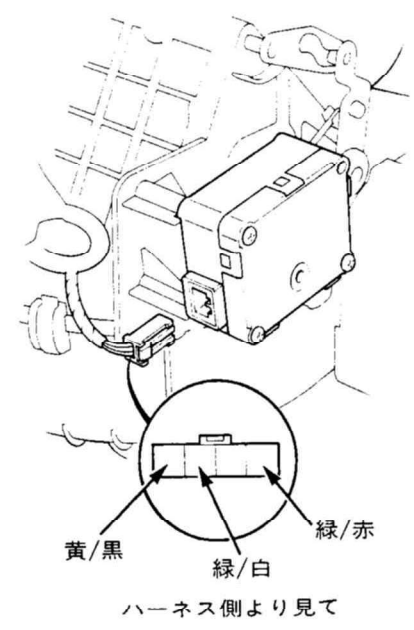
NO ヒューズボックスと内外気切換えモータ間の黄/黒ハーネスの不良

イグニッションスイッチをOFFにする

内外気切換えモータ単体の点検をする (15-30頁)

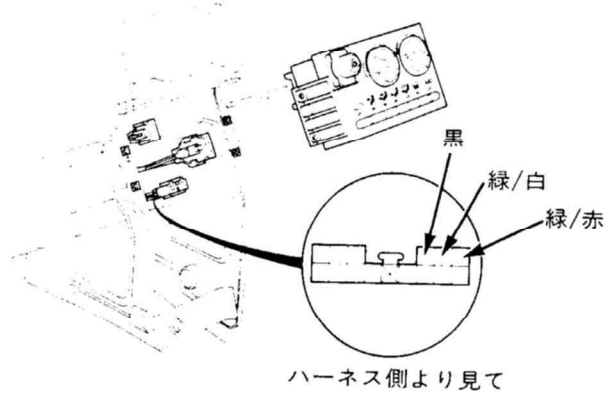
正常か

NO 内外気切換えモータの不良、又はダンパのひっかかり



15-15頁へ

15-14頁より



ヒータ コントロール スイッチを外す (15-24頁)

ヒータ コントロール スイッチと内外気切換えモータ間の緑/白、緑/赤ハーネスの導通を確認する

導通あるか
NO 導通のないハーネスの不良
YES

ヒータ コントロール スイッチの14Pカブラの黒ハーネスとボディ アース間の導通を確認する

導通あるか
NO 黒ハーネスの不良、又はアース不良
YES

ヒータ コントロール スイッチの不良

故障診断

故障診断チャート

吹き出し口が切り変わらない

モード モータの 8 Pカブラ
を外す

イグニッション スイッチを
ONにする

8 Pカブラの黄/黒端子とボ
ディ アース間の電圧を測定
する

バッテリー電圧か

NO

ヒューズ ボックスとモード モー
タ間の黄/黒ハーネスの不良

YES

イグニッション スイッチを
OFFにする

モード モータ単体の点検を
する (15-31頁)

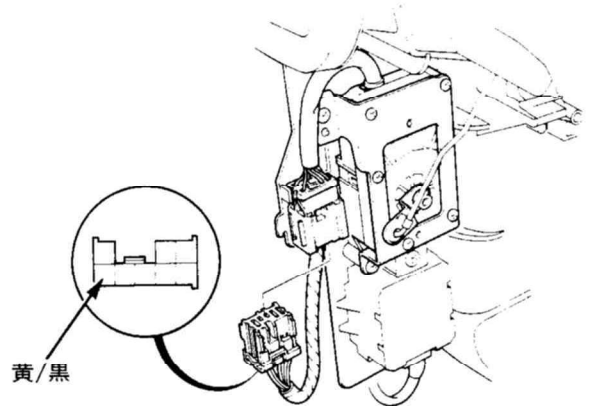
正常か

NO

モード モータの不良、又はダンパ
のひっかかり

YES

15-17頁へ



15-16頁より

ヒータ コントロール スイッチを外す (15-24頁)

ヒータ コントロール スイッチ14Pカプラとモード コントロール モータ 8Pカプラ間の黄/青、黄、青/白、黄/緑、黄/赤ハーネスのそれぞれ導通を確認する

導通あるか

NO 導通のないハーネスの不良

YES

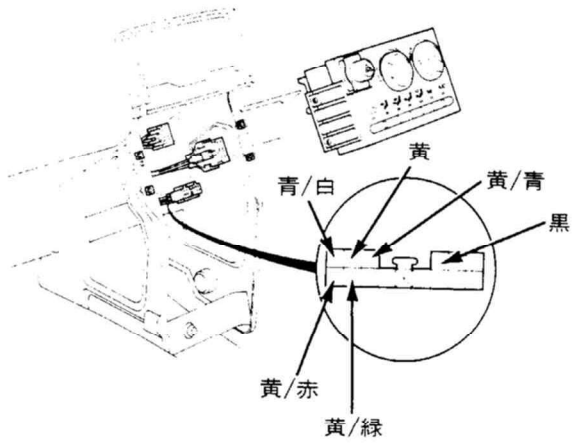
ヒータ コントロール スイッチ14Pカプラの黒ハーネスとボディ アース間の導通を確認する

導通あるか

NO 黒ハーネスの不良、又はアースの不良

YES

ヒータ コントロール スイッチの不良



故障診断

故障診断チャート

コンプレッサが作動しない

コンプレッサ クラッチ リレ
ー 4 Pカブラを外す

イグニッション スイッチを
ONにする

4 Pカブラの黒/黄(1)、黒/
黄(2)端子とボディ アース
間の電圧を測定する

バッテリー電圧か

NO

ヒューズ ボックスとリレー間の
黒/黄ハーネスの不良

YES

イグニッション スイッチを
OFFにする

コンプレッサ クラッチ リレ
ー単体の点検をする (15-33
頁)

正常か

NO

コンプレッサ クラッチ リレーの
不良

YES

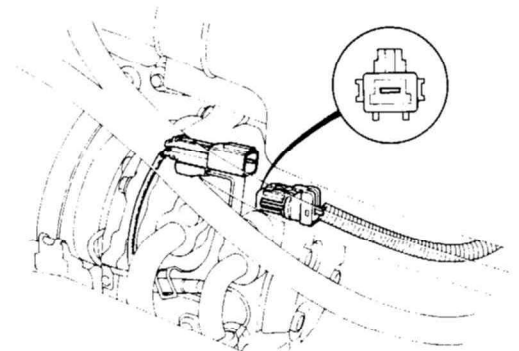
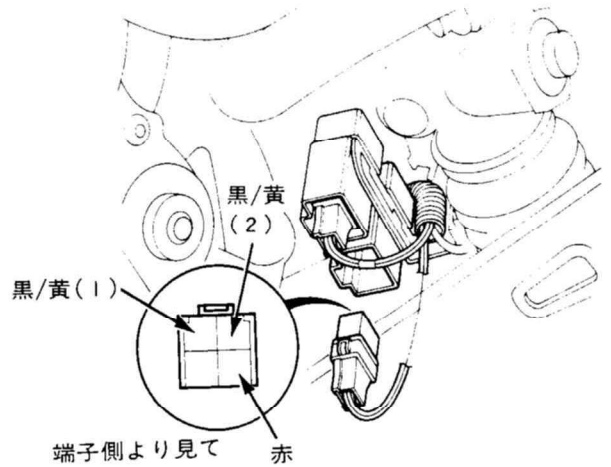
イグニッション スイッチを
ONにする

4 Pカブラの黒/黄(2)端子
と赤端子を接続する

コンプレッサ 1 Pカブラを外す

1 Pカブラ車体側端子とボディ
アース間の電圧を測定する

15-19頁へ



15-18頁より

バッテリー電圧か

NO → コンプレッサ クラッチ リレーと
コンプレッサ クラッチ間の赤ハ
ーネスの不良

YES

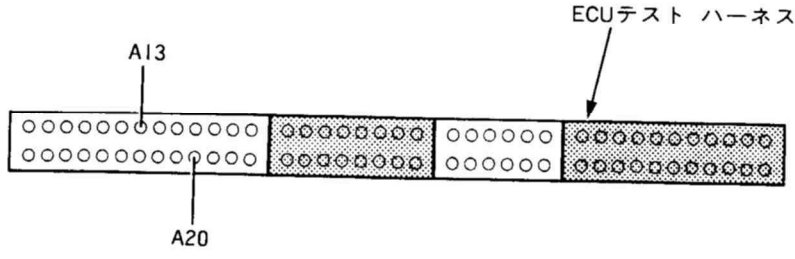
イグニッション スイッチを
OFFにする

コンプレッサ クラッチ リレ
ー4Pカプラを再接続する

ECUテスト ハーネスをECU
のカプラ側のみを接続する
(6-13頁)

イグニッション スイッチを
ONにする

テスト ハーネスのA13端子
とボディ アース間の電圧を
測定する



バッテリー電圧か

NO → コンプレッサ クラッチ リレーと
ECU間の桃ハーネスの不良

YES

A/Cスイッチ、ファン スイッ
チをOFFにする

テスト ハーネスのA20端子
とボディ アース間の電圧を
測定する

バッテリー電圧か

NO → コンデンサ ファン リレーと
ECU間の青/赤ハーネスの不良

YES

新品のECUで再点検する

故障診断

故障診断チャート

A/Cシステムが作動しない
(コンデンサ ファン、コンプレッサが共に作動しない)

フローチャートを始める前に：冷媒圧力は正常であること

7.5A(ファン リレー)ヒューズを点検する

正常か
NO → ヒューズ不良
YES

プレッシャ スイッチ 2 Pカプラを外す

イグニッション スイッチをONにする

2 Pカプラの青/赤端子とボディアース間の電圧を測定する

バッテリー電圧か
NO → 15-23頁へ
YES

2 Pカプラの青/赤端子をボディアースに短絡させる

コンプレッサ マグネット クラッチは作動するか
NO → イグニッション スイッチをOFFにする
YES

ECUテスト ハーネスをECUのカプラ側のみ接続する(6-13頁)

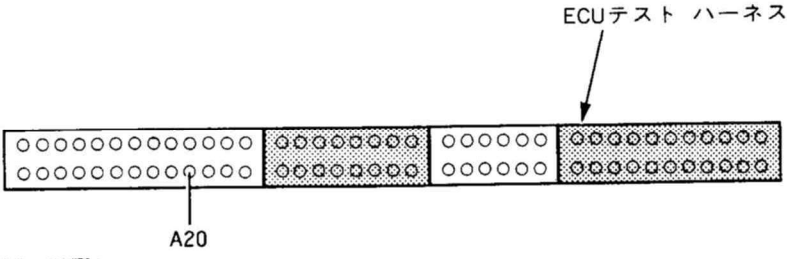
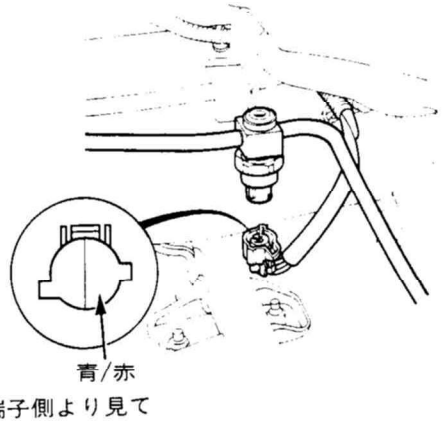
イグニッション スイッチをONにする

ECUテスト ハーネスのA20端子とボディアース間の電圧を測定する

バッテリー電圧か
NO → コンデンサ ファン リレーと ECU間の青/赤ハーネスの不良
YES

新品のECUで再点検する

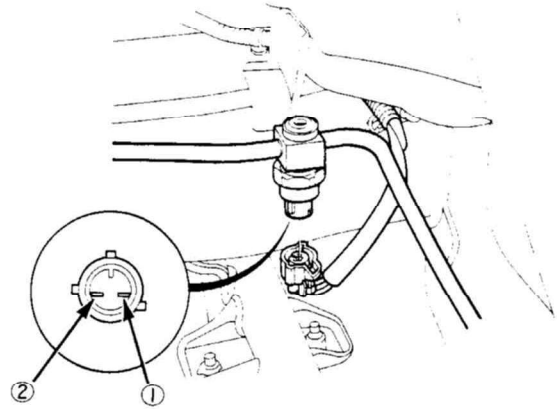
15-21頁へ



15-20頁より

イグニッション スイッチを
OFFにする

プレッシャ スイッチの①、②
端子間の導通を確認する



導通あるか

NO

プレッシャ スイッチの不良

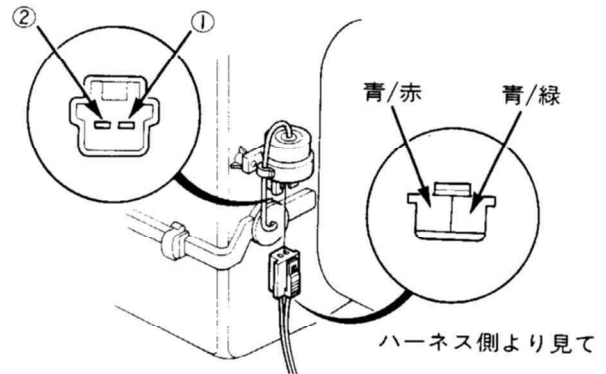
YES

プレッシャ スイッチ 2Pカ
ブラを再接続する

サーモ スタット 2Pカブラ
を外す

イグニッション スイッチを
ONにする

2Pカブラの青/緑端子とボ
ディアース間の電圧を測定
する



バッテリー電圧か

NO

プレッシャ スイッチとサーモ ス
タット間の青/緑ハーネスの不良

YES

イグニッション スイッチを
OFFにする

15-22頁へ

故障診断

故障診断チャート

15-21頁より

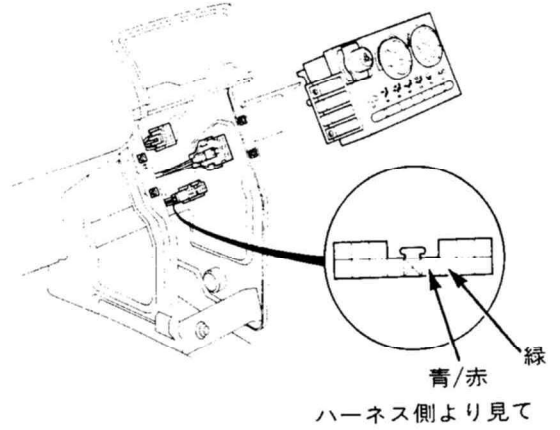
サーモ スタットの①、②端子間の導通を確認する

導通あるか

NO

サーモ スタットの不良

YES



ヒータ コントロール スイッチを外す (15-24頁)

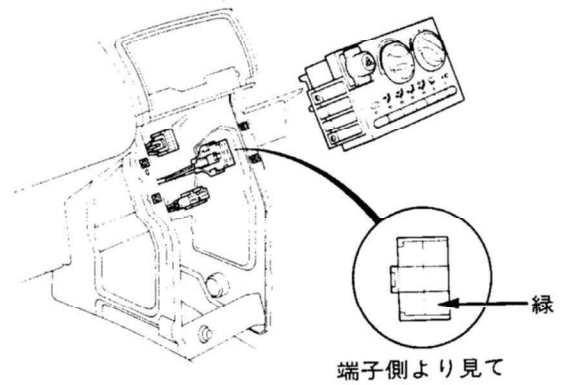
ヒータ コントロール スイッチ14Pカプラを外し、サーモ スタット間の青/赤ハーネスの導通を確認する

導通あるか

NO

ヒータ コントロール スイッチとサーモ スタット間の青/赤ハーネスの不良

YES



ヒータ コントロール スイッチ14Pカプラとファン スイッチ 6Pカプラ間の緑ハーネスの導通を確認する

導通あるか

NO

ヒータ コントロール スイッチ14Pカプラとファン スイッチ 6Pカプラ間の青/赤ハーネスの不良

YES

ヒータ コントロール スイッチの不良

15-20頁より

コンデンサ ファン リレー 4
Pカブラを外す

イグニッション スイッチを
ONにする

4 Pカブラの黒/黄端子とボ
ディ アース間の電圧を測定
する

バッテリー電圧か

NO

ヒューズ ボックスとリレー間の
黒/黄ハーネスの不良

YES

コンデンサ ファン リレーの
単体の点検をする (15-33
頁)

正常か

NO

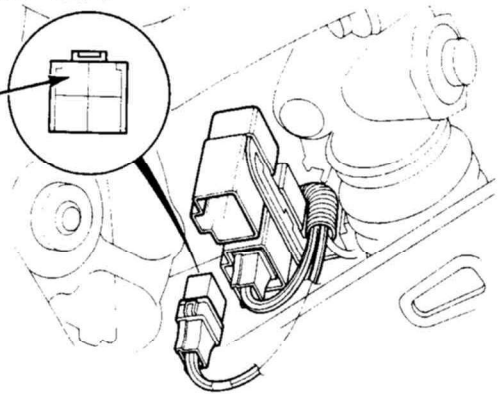
コンデンサ ファン リレーの不良

YES

コンデンサ ファン リレーとプレ
ッシャ スイッチ間の青/赤ハー
ネスの不良

端子側より見て

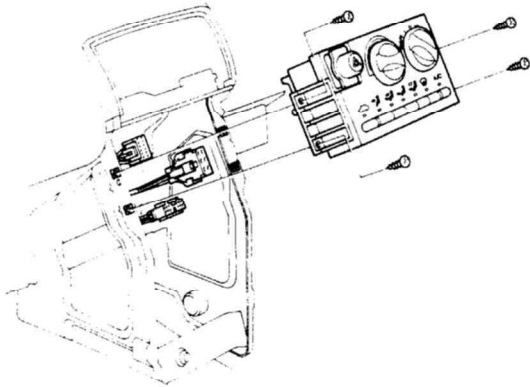
黒/黄



ヒータ コントロール スイッチ

脱着

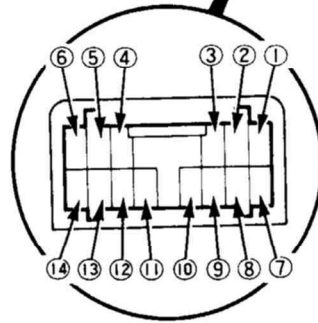
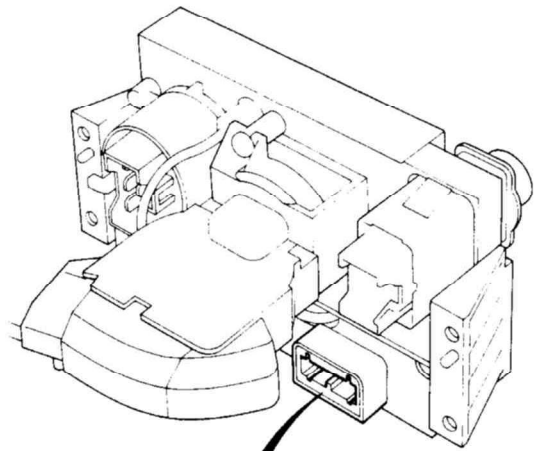
- ①リヤ センタ コンソールを取外す。(14章)
- ②インストルメント パネルのセンタ アウト レットを取外す。
- ③フロント センタ コンソールを取外す。
- ④ヒータ コントロール スイッチ取付けタッピング スクリュー(4)を外し、エア ミックス ワイヤをヒータ ユニット側で外す。
- ⑤ヒータ コントロール スイッチよりカプラ類を外し取外す。



取付けは、取外しの逆手順で行うが次の事に注意する。

- ・エア ミックス ワイヤは取付け後、作動確認を行うこと。
- ・ファン スイッチの作動確認を行うこと。
- ・モード スイッチの作動確認を行うこと。

点検



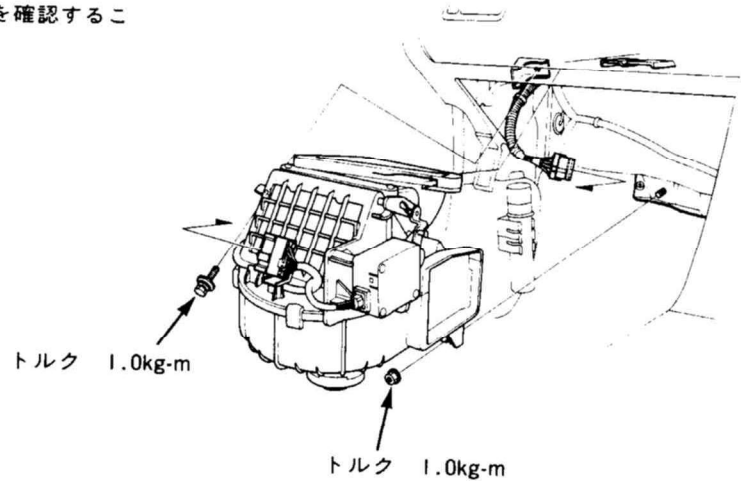
No.	ハーネス色	信号	No.	ハーネス色	信号
①	緑/赤	外気導入	⑧		
②	緑/白	内気循環	⑨	緑	ファン スイッチへ
③	黒	GND	⑩	青/赤	A/C
④	黄/青	DEF	⑪		
⑤	黄	H/D	⑫	赤/黒	ライティング スイッチ
⑥	青/白	HEAT	⑬	黄/緑	VENT
⑦	黒/黄	IG ₂	⑭	黄/赤	B/L

ブロー

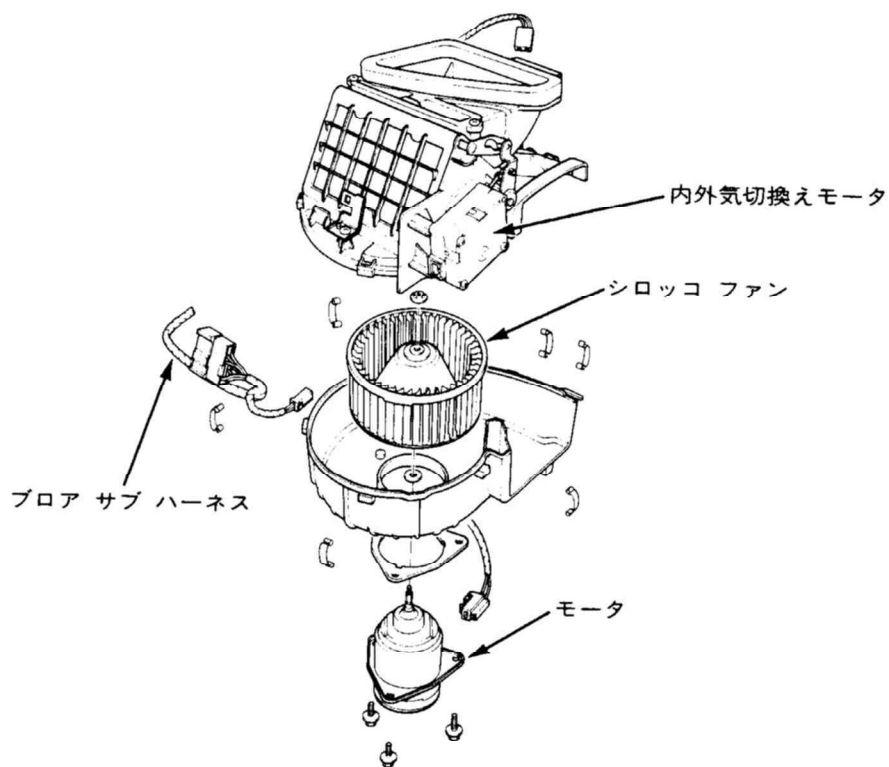
脱着

- ①アシスタント パネルを取外す。
- ②アシスタント ボックスを取外す。
- ③アシスタント ボックス フレーム取付けスクリュ (3)、ボルトを外し、フレームを取外す。
- ④カプラとエアコン バンドを外す。
- ⑤ブロー取付けボルト、ナットを外し、ブローを取外す。

*****取付けは、取外しの逆手順で行うがブローの前上部の引っ掛け部を、ボディへ確実に引っかけて密着性を確認すること。



分解、組立て

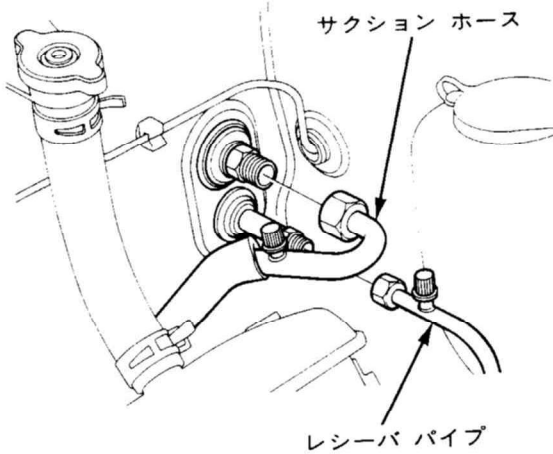


クーリング ユニット

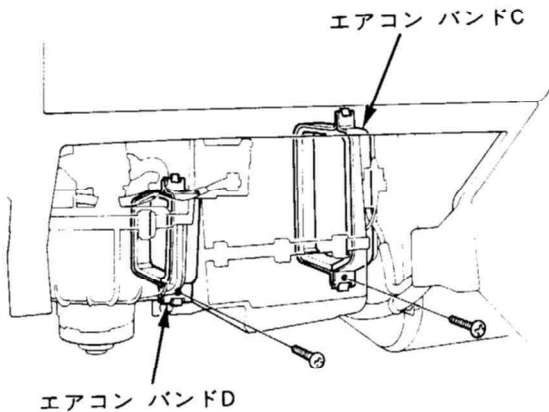
脱着

注意 ホース、パイプを取外した後は、直ちに接続部を盲栓またはビニールテープを用いて封をする。

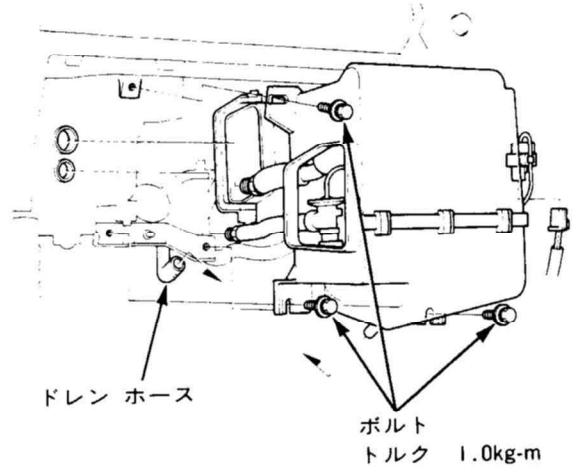
- ①冷媒を回収する。
- ②レシーバパイプ、サクシヨンホースの接続を外す。



- ③アシスタントパネルを取外す。
- ④アシスタントボックスを取外す。
- ⑤アシスタントボックスフレーム取付けスクリュー(3)、ボルトを外し、フレームを取外す。
- ⑥エアコンバンドのスクリューを外し、バンドC、Dを取外す。



- ⑦クーリングユニットよりドレンホース、サーモスタットカプラを外し、クーリングユニット取付けボルト(3)を外し、クーリングユニットを取外す。

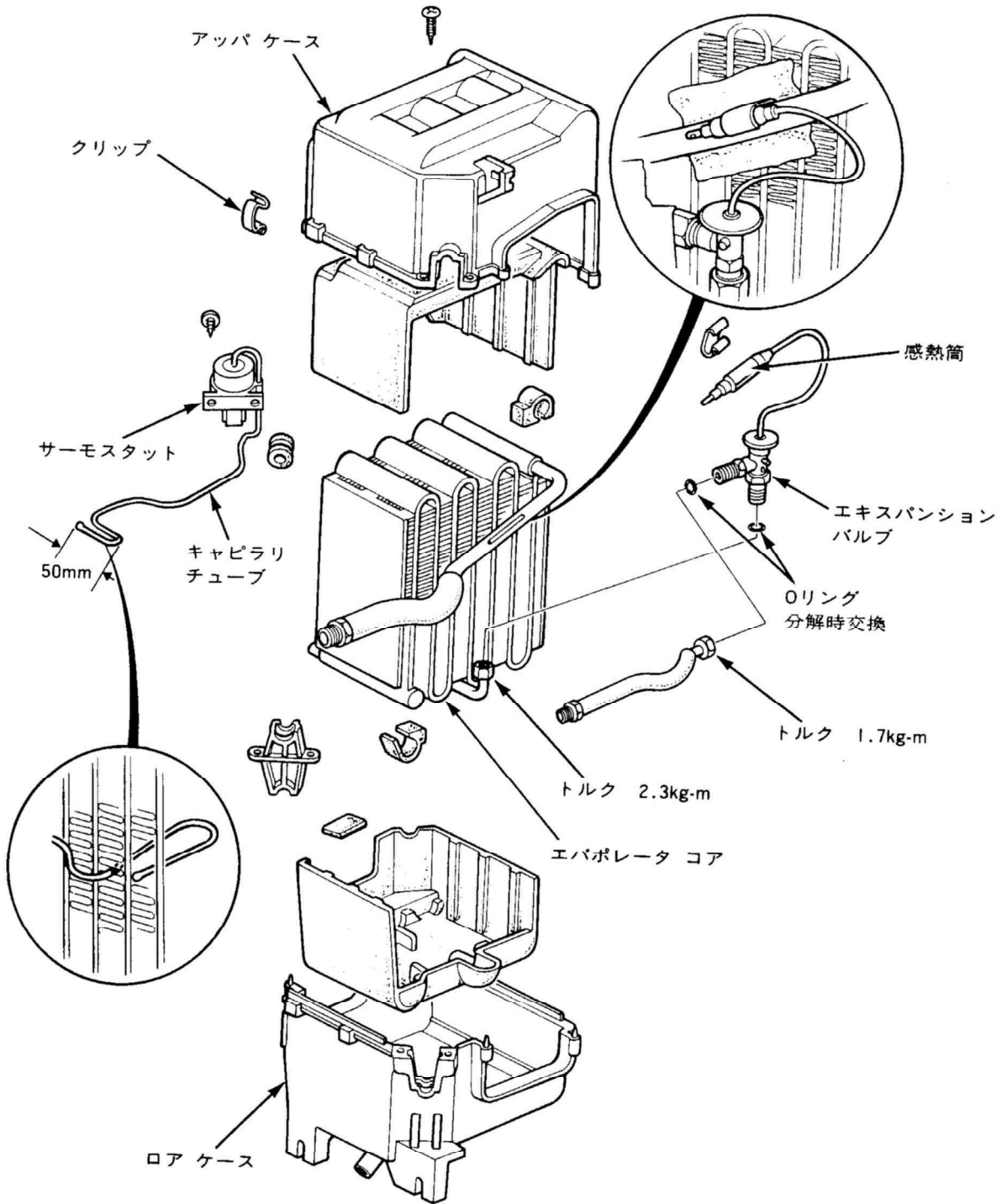


取付けは取外しの逆の手順で行う。

注意 エバポレータを新品に交換した場合は、コンプレッサにオイルを10cc追加する。

- * 各シール部は風洩れのないように取付けること。
- ・ グロメットの内外周には、シーリング材(セメダイン366または相当品)を塗布すること。
- ・ ドレンホースは正確に通すこと。
- ・ 取付け後は、真空引き→冷媒の封入→性能テストを行う。

分解、組立て



- * 感熱筒とサクシオン パイプは確実に取付け、コール テープで確実に被う。
- ・サーモスタットのキャピラリ チューブは、エバポレータ上部より60mmの位置に挿入する。
- ・上下ケース組付け時、合せ面に隙間がないことを確認する。

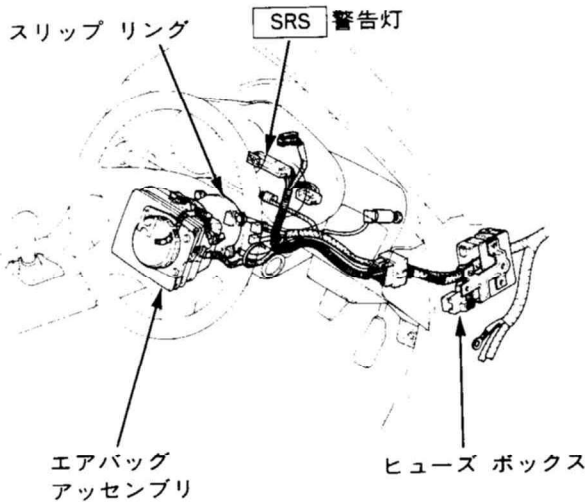
ヒータ ユニット

脱着

注意 エアバッグ アセンブリは必ずパッド面を上に向けて保管しておくこと。パッド面を下にしておくと、万一エアバッグ アセンブリが作動(膨張)するようなことがある場合、金属部が体に当り危険である。

注意

- ・SRSエアバッグ システム用のワイヤ ハーネスは黄色の保護チューブが巻かれており、他のシステムのワイヤ ハーネスと区別している。
- ・SRSエアバッグ システムのワイヤ ハーネスに損傷、切損等が生じた場合、ハンダ等の修理を行ってはならない。必ず新品と交換すること。
- ・整備中に、エアバッグ アセンブリを落したり、ぶついたりしないように十分注意すること。万一床に落したり、オイルや洗剤油が付着したものは新品と交換すること。
- ・SRSエアバッグ システム用のワイヤ ハーネスの接続を外す場合は、イグニッション スイッチをOFFにし、バッテリーからマイナス、プラス ケーブルを外し3分以上経過後作業を開始すること。

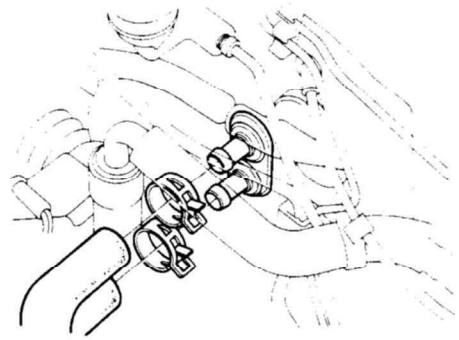


注意

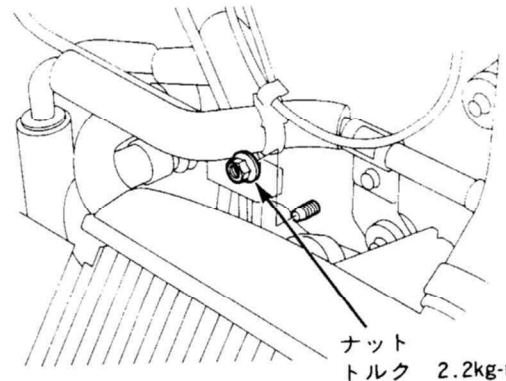
エンジンが熱い時は、十分に冷してから作業を行う。

- ①ラジエータ液を抜き取る。
- ②ヒータ ホース バンドをゆるめて、ホースを抜き取る。

注意 ホースの接続を外すと、ラジエータ液が流出するので容器に取り、さらにウエス等を用いて、他に付着するのを防ぐ。

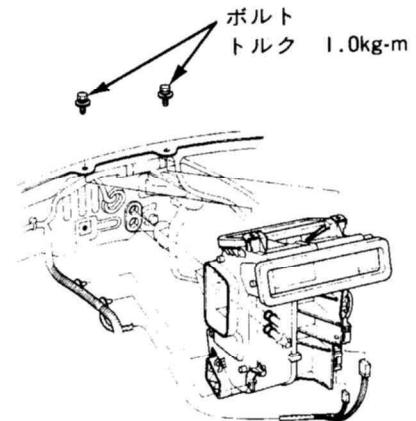


③エンジン ルーム側ヒータ取付けナットを取外す。



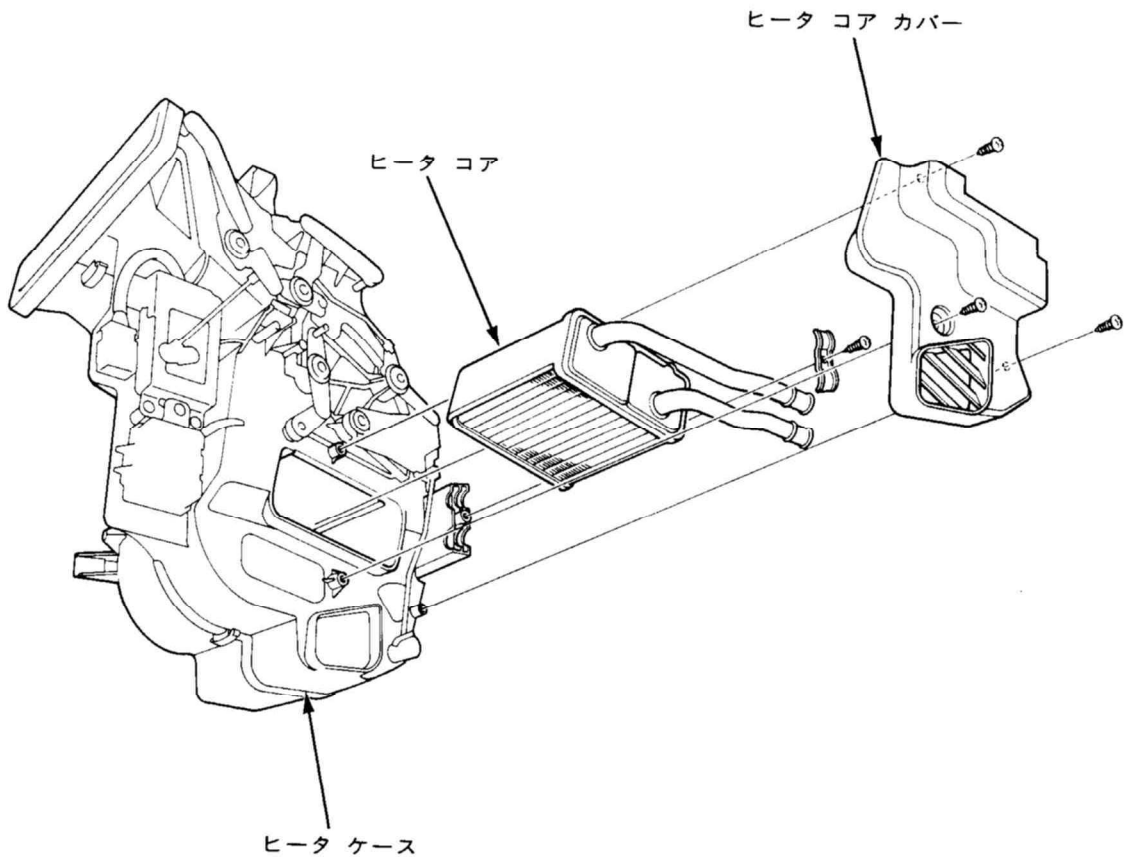
④インストルメント パネルを取外す。

⑤室内側ヒータ取付ボルト(2)を外して、ヒータを取外す。



取付けは取外しの逆手順であるが、次の点に注意する。

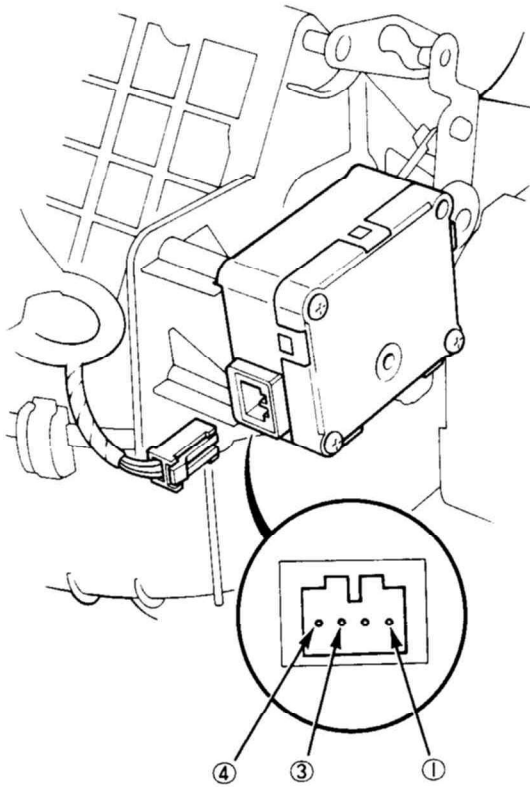
- ・グロメットにシーラを塗布する。
- ・ホースはインレット側、アウトレット側を間違えないように注意し、バンドは確実に締付けること。
- ・冷却システムのエア抜きを完全に行うこと。
- ・ケーブルの接続を確実にし、操作に支障がないことを確認する。
- ・メータ関係の作動確認を行う。
- ・ラジオ、時計などの作動確認をする。



内外気切換えモータ

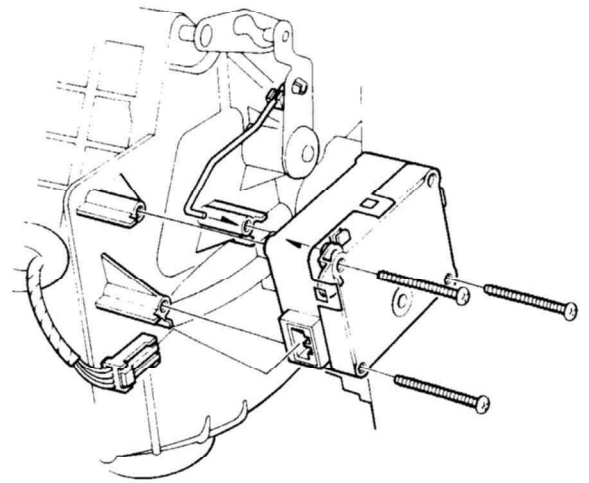
点検

4Pカプラの④端子にバッテリーの⊕を接続し、③端子にバッテリーの⊖を接続した時にREC側に作動し①端子にバッテリーの⊖を接続した時にFRS側に作動することを確認する。



脱着

- ①アシスタント パネルを取外す。
- ②アシスタント ボックスを取外す。
- ③4Pカプラを外し、内外気切換えモータ取付けスクリュ(3)を外し、モータを取外す。



モード モータ

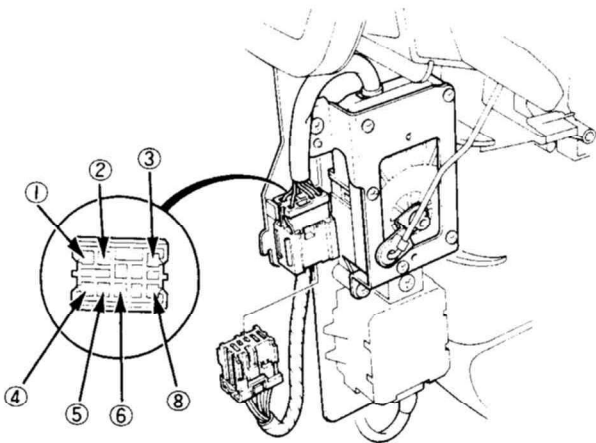
点検

- ①モード モータ 8Pカプラの⑧端子にバッテリーの⊕を④端子に⊖を接続する。

注意 バッテリーの⊕、⊖をモータの⑧、④端子に逆接続しないこと。

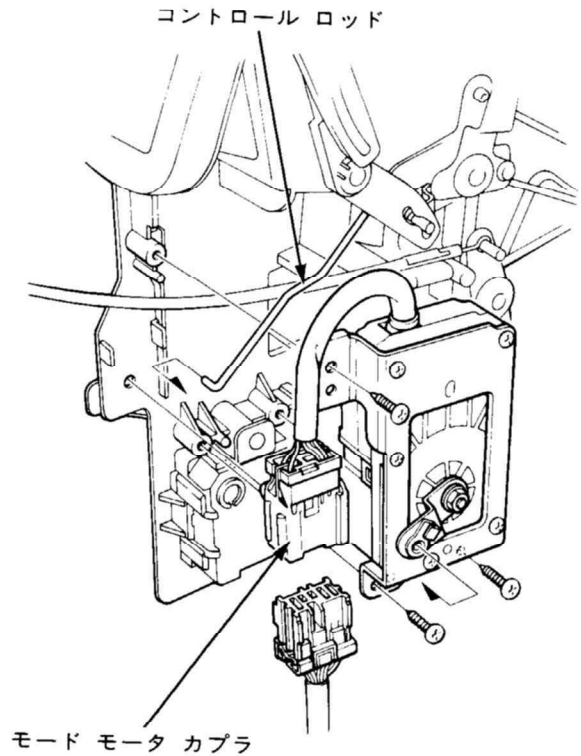
- ②バッテリーの⊖を①、②、③、⑤、⑥端子に1本ずつ接続し、モータが作動することを確認する。

*****最初に接続した時に作動しない端子は、最後に再接続しモータが作動することを確認する。



脱着

- ①モード モータよりコントロール ロッドおよび8Pカプラを外す。
- ②モード モータを取外す。

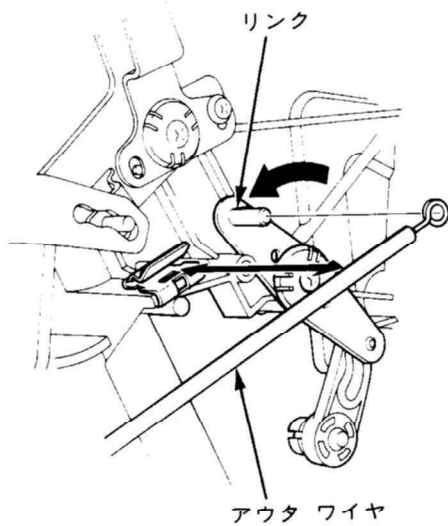


コントロール ワイヤ

調整

エア ミックス ワイヤ

- ①温度コントロール レバーをCOLD側にセットする。
- ②リンクにワイヤの先端の輪をかけ、リンクを矢印側に移動させる。
- ③リンクを矢印側に押しながら、アウト ワイヤをクランプで固定する。

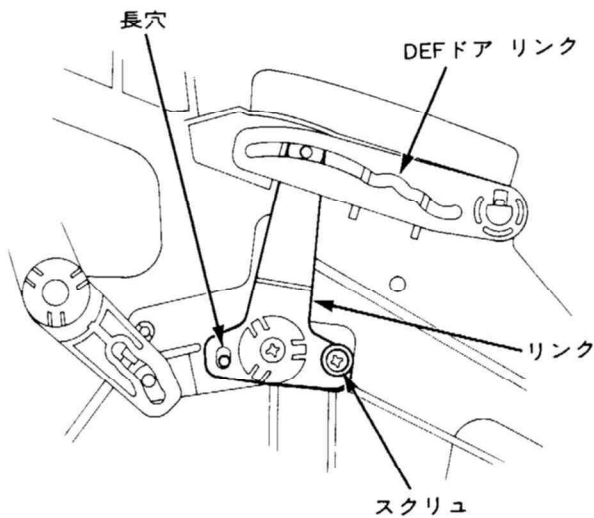


DEFリンク

スクリュをゆるめ下図のように長穴の位置をO側にしスクリュをしめる。

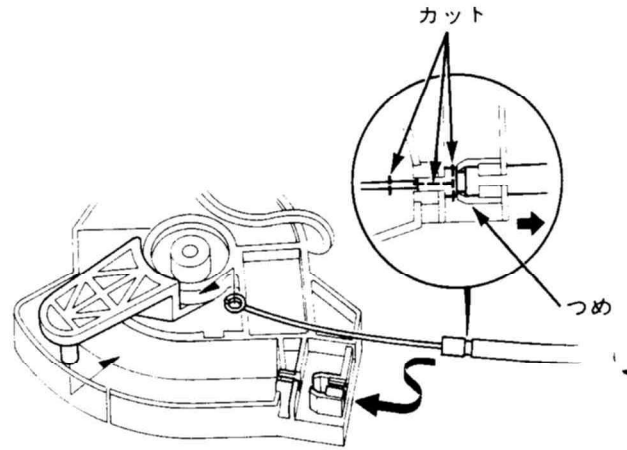
DEFへの漏らし量

- O側 : 20%
- S側 : 0%



交換

エア ミックス ワイヤのヒータ コントロール側は、下図のようにカットし、つめを折らないようにワイヤをとりだし、新しいワイヤと交換する。



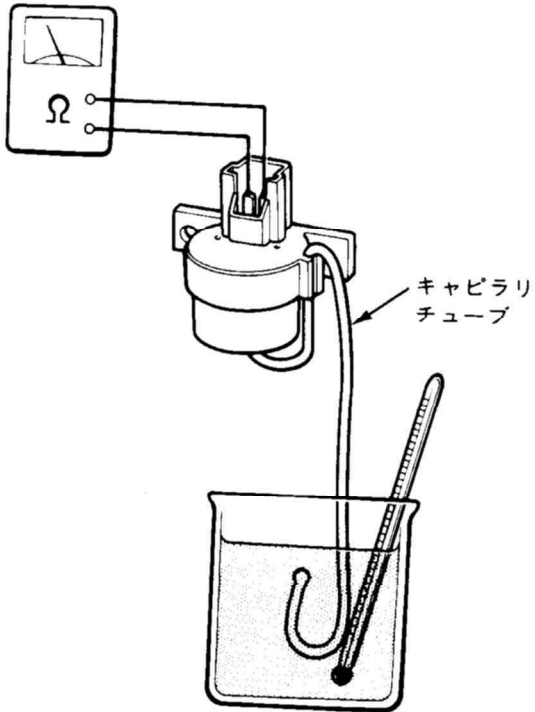
サーモスタット

点検

キャピラリ チューブを氷水に入れ導通を確認する。

導通あり→導通なし：1.5～-0.5°C

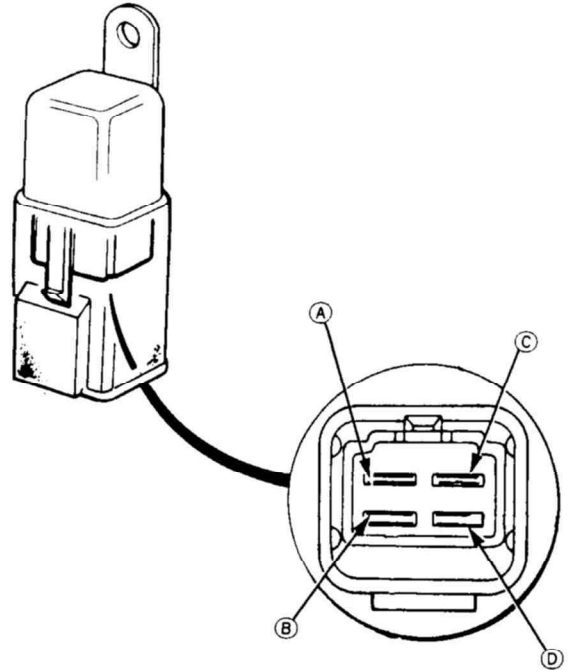
導通なし→導通あり：2.5～5°C



リレー

点検

何もしない状態で①と②間に導通がなく、③にバッテリーの⊕(プラス)を④にバッテリーの⊖(マイナス)を接続したときに、①と②間に導通があることを確認する。

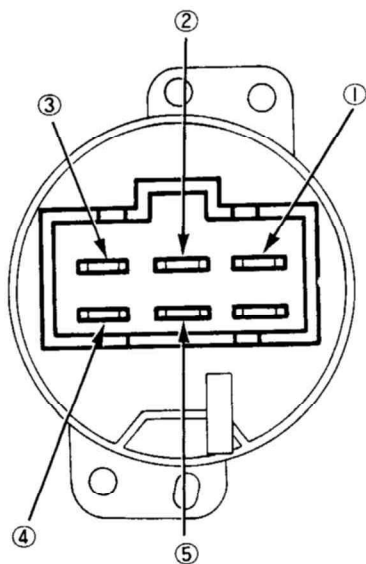


ファン スイッチ

点検

下表にもとづいて導通を点検する。

端子 ポジション	①	②	③	④	⑤
OFF					
I	○	—	—	—	○
II		○	—	—	○
III			○	—	○
MAX				○	○



冷房サイクルの整備上の注意事項

エア コンディショナを正しく、安全に整備するために以下の注意事項を必ず守ること。

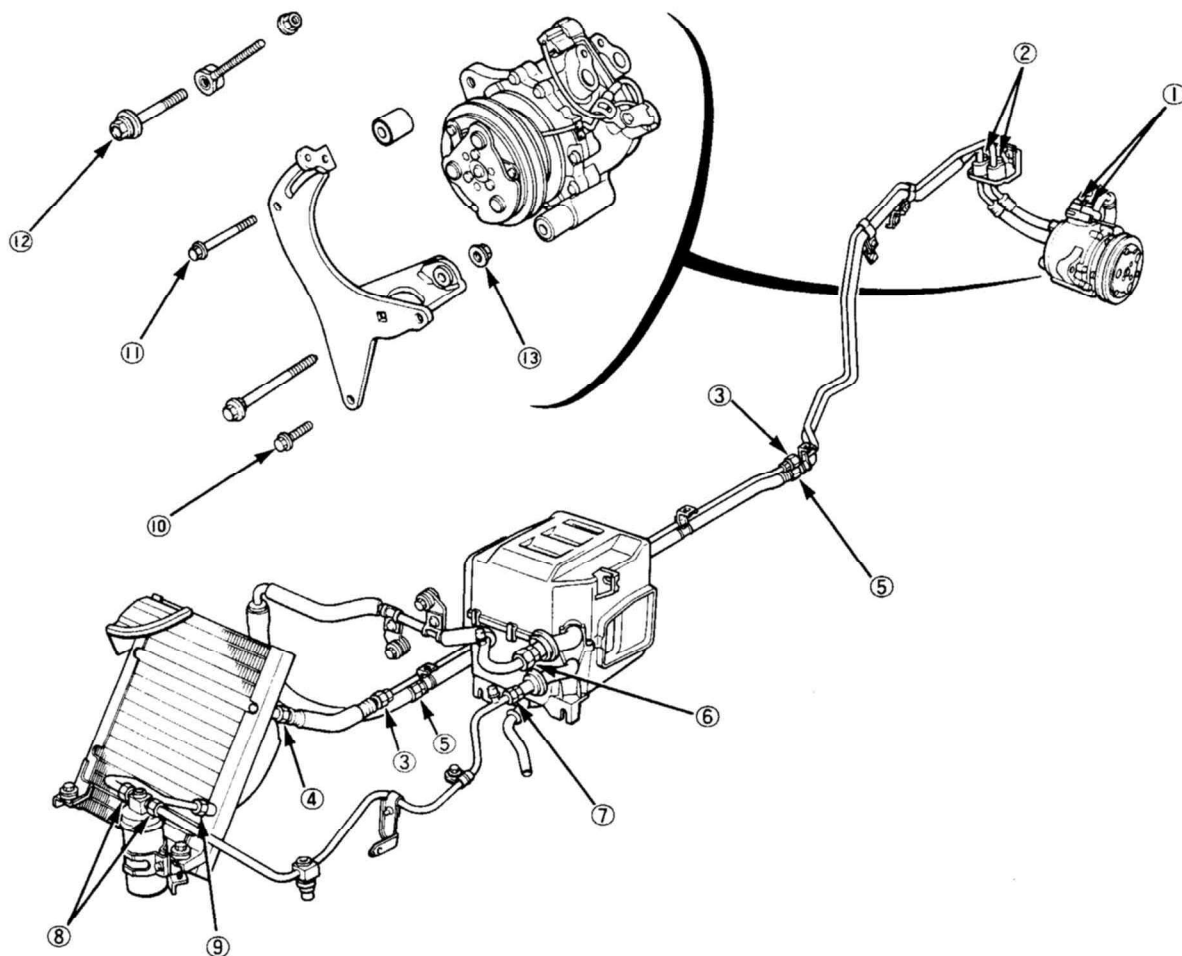
注意

1. 脱着作業は必ずバッテリーの⊖(マイナス)端子を取外してから行う。
2. エア コンディショナ部品内部に湿気やゴミ、空気は絶対に入れないこと。
 - ・屋外での作業、または雨天時の作業はできるだけ避けること。
 - ・エア コンディショナ部品は、盲栓をはずしたまま放置しないこと。
 - ・盲栓の取外しは、接続作業寸前に行うこと。
 - ・取外し作業後、直ちに盲栓をすること。
3. ホース、パイプの接続時にOリングおよびネジ部にコンプレッサ オイルを塗布すること。
4. ホース、パイプの接続時はダブル スパナで行うこと。(ナット側を回し、相手側を固定する)
5. ホース、パイプの接続時は規定トルクで締付けること。
6. 冷媒の取扱いの注意事項
 - ・保護メガネを着用して取扱うこと。
 - ・冷媒(液)が直接皮膚にかからないようにすること。
 - ・冷媒缶、回収タンクは絶対に35°C以上に暖めないこと。
 - ・冷媒缶、回収タンクの取扱いは換気の良い所で行うこと。
 - ・冷媒ガスが炎など高熱部に触れると、有毒物質を生成するため、ハライド トーチ式検出器を使用する時には、検出器から出てくるガスを吸わないこと。
 - ・冷媒ガスは回収機を使用して回収し、車両整備後、回収した冷媒ガスを元の車両に充填する。
*回収機の使用に関して、回収機説明書の使用方法に従い、作業を行って下さい。
 - ・冷媒ガスは極力大気に排出せぬよう注意して取扱うこと。
 - ・冷媒が目に入ったときの処置
 1. 目を手やハンカチでこすらないこと。
 2. 水で十分に良く洗う。
 3. 目の痛みが止まらないときは、薄い硼酸溶液か2%以下の食塩水で目を洗う。
 4. 専門の眼科医の手当てを受ける。
 - ・その他冷媒缶、回収タンクに貼付けてあるラベルの注意事項を守ること。
7. 冷媒を抜いた状態でコンプレッサを回転させないこと。
8. 各部品を交換するときは、旧部品内にある程度コンプレッサ オイルが残留したままになるため、冷房サイクルにオイルが不足するので、コンプレッサにオイルを補充する。

コンデンサ交換時	10cc
クーリング ユニット交換時	10cc
レシーバ交換時	10cc
配管類交換時	10cc

 - *コンプレッサ交換時は、新品のコンプレッサより下記の計算式で出した量のオイルを抜き取る。
新品のコンプレッサより抜き取るオイル量 = 120cc - 取外したコンプレッサから抜き取った量。
9. 冷媒封入前は、必ず真空引きを行い、サイクル内の水分を除去する。
10. 冷媒封入時は規定量を守る。
11. コンプレッサが作動中は、コンデンサ ファンが回転することを確認する。
 - *ラジエータ ファンは、A/Cシステムと同期回転はせず温度感知で回転する。

締付けトルク一覧





- ①サクシオン ホース及びディスチャージ ホース
のコンプレッサ側2.2kg-m
- ②サクシオン ホース、ディスチャージ ホースと
サクシオン パイプRR、ディスチャージ パイプRR2.2kg-m
- ③ディスチャージ パイプFRの両端2.3kg-m
- ④ディスチャージ ホースFRとコンデンサ2.3kg-m
- ⑤サクシオン パイプFRの両端3.3kg-m
- ⑥サクシオン ホースとエバポレータ3.3kg-m
- ⑦レシーバ パイプとエバポレータ1.7kg-m
- ⑧レシーバ タンク両端1.7kg-m
- ⑨コンデンサ パイプのコンデンサ側1.7kg-m
- ⑩コンプレッサ ブラケット 取付けボルト4.5kg-m
- ⑪コンプレッサ ブラケット 取付けボルト4.5kg-m
- ⑫コンプレッサ取付けボルト4.8kg-m
- ⑬コンプレッサ取付けナット4.8kg-m

性能テスト

① マニホールド ゲージを、チェック ジョイントに結合する。

② 乾湿温度計をブローアの吸入口に、乾球温度計を空気吐出口にセットする。

③ 次の測定条件をととのえる。

- ・ 日射なし
- ・ ボンネット開放
- ・ フロント ドア及びドア ガラス全開、その他は全閉
- ・ 温度調整レバー：COLD最大
- ・ 内外気切換えスイッチ： (内気循環)
- ・ モード スイッチ：
- ・ ファン スイッチ：MAX
- ・ A/Cスイッチ：ON
- ・ エンジン回転数：1500rpm

④ 測定条件で約10分間運転する。

⑤ 吸入空気温度、吐出空気温度、吸入圧力(低圧ゲージ)、吐出圧力(高圧ゲージ)を読みとり、測定結果とインスペクション データを照合する。

<例>

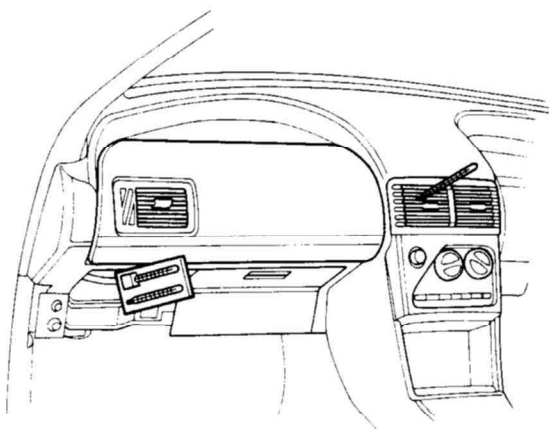
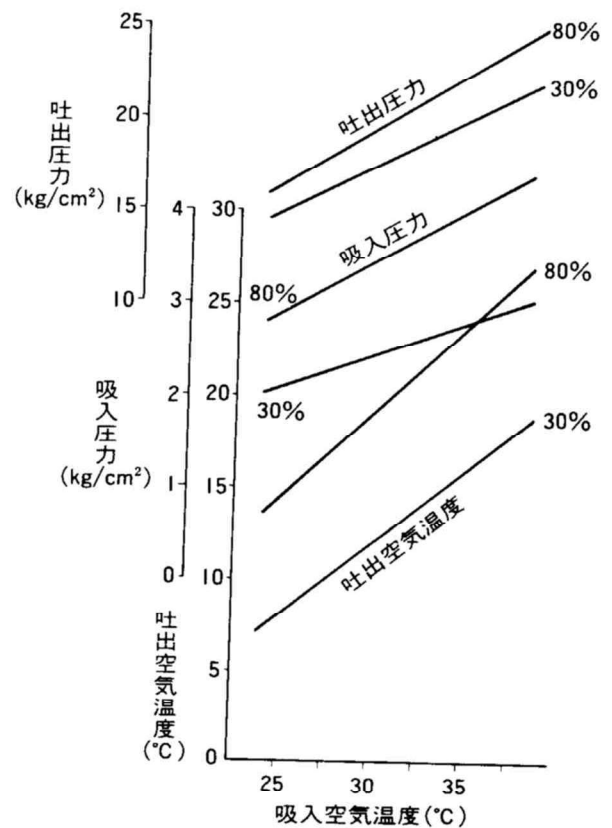
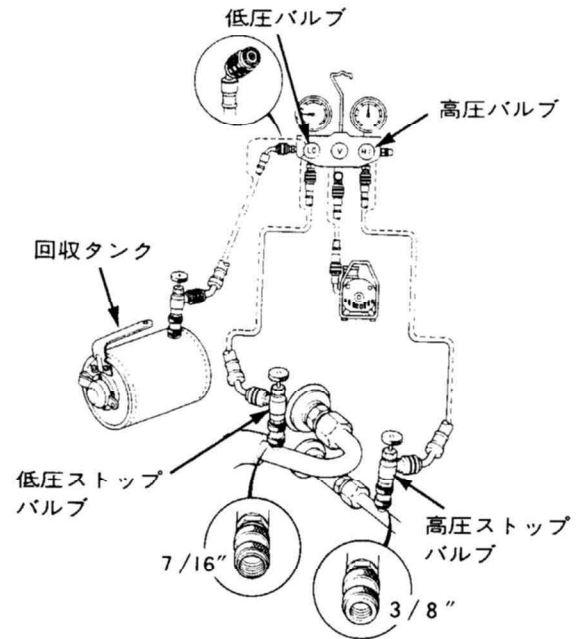
測定結果 吸入空気温度(乾)：30°C
 (湿)：28.5°C } 湿度70%

吐出空気温度：18°C
 吐出圧力：18.0kg/cm²
 吸入圧力：3.3kg/cm²

判定 冷房サイクルは正常

* インスペクション データは、湿度30~80%の時に測定したグラフである。数値は、湿度が30%以下の時は低く、80%以上の時は高くなる傾向がある。

3バルブ マニホールド ゲージ



冷媒圧力の異常

故障診断

異常現象	状況	推定原因	処置
吐出圧力が異常に高い。	<ul style="list-style-type: none"> • 高圧圧力が外気温度にくらべ高く、コンプレッサを停止すると一たん 2 kg/cm^2 ぐらいすぐ下がり、後はゆっくり下っていく。 	サイクル内に空気が混入している。	冷媒を一たん抜き、真空引き後再度エアが入らないよう充填する。
	<ul style="list-style-type: none"> • コンデンサを水で冷やしても圧力が正常にならない。 	冷媒の過充填	規定量まで冷媒を抜く。
	<ul style="list-style-type: none"> • ラジエータ ファンの風の吸込みが悪い。 	コンデンサ、ラジエータのフィン部にゴミがたまっている。 ラジエータ ファン回転不良	コンデンサ、ラジエータを洗浄する。 電圧、回転のチェック。
	<ul style="list-style-type: none"> • リキッド配管はさほど熱くないが、コンデンサ付近だけ熱すぎる。 	サイクル内がつまり気味になっている。	各機器および配管のつまりを取除く。
吐出圧力が低い。	<ul style="list-style-type: none"> • サイトグラスに多量の気泡が見られコンデンサが熱くない。 	冷媒が少ない。	規定量まで充填する。
	<ul style="list-style-type: none"> • コンプレッサを停止すると高圧側、低圧側の圧力がすぐバランスしてしまう。 	コンプレッサ吐出弁、吸入弁破損。 コンプレッサ シールの不良。	コンプレッサ Assy 交換。 シール交換。
	<ul style="list-style-type: none"> • エキスパンションバルブ出口に霜がつかず、低圧側圧力が負圧を示す。 	感熱筒のガスもれ。 エキスパンションバルブの凍結。 エキスパンションバルブの不良。	エキスパンションバルブを交換。
吸入圧力が異常に低い。	<ul style="list-style-type: none"> • サイトグラスに気泡が多く見え、コンデンサも熱くない。 	冷媒の不足。	サイクルのガスもれ箇所をチェックし補修し、真空引きを実施してから規定量まで充填。
	<ul style="list-style-type: none"> • エキスパンションバルブに霜がつかず低圧配管も冷たくなく、低圧ケーシングが真空になる。 	感熱筒のガスもれ。 エキスパンションバルブの凍結。 エキスパンションバルブの不良。	エキスパンションバルブを交換する。
	<ul style="list-style-type: none"> • 吐出口温度が低く風が出ない。 	エバポレータが凍結している。	除霜できるまでコンプレッサを停止し、ファンだけ回転する。
	<ul style="list-style-type: none"> • エキスパンションバルブに霜がついている。 	エキスパンションバルブのつまりぎみ。	清掃(水分を取除く)または交換
	<ul style="list-style-type: none"> • エキスパンションバルブ出口、エバポレータに比較し低圧側ホースのコンプレッサ付近が冷たい。 	低圧側ホースのつぶれ、つまり。	清掃または交換。
吸入圧力が高すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> • エバポレータ付近にくらべ、低圧ホース、チェックジョイント付近が冷えている。 	エキスパンションバルブの開きすぎ。 感熱筒の接触不良。	取付けなおし、または交換。
	<ul style="list-style-type: none"> • 高圧側圧力も高いが、コンデンサを冷やす(水をかける)と吸入圧力がさがる。 	冷媒の過充填。	規定量まで冷媒を抜きとる。
	<ul style="list-style-type: none"> • コンプレッサを停止すると高圧圧力が低圧圧力と早くバランスしてしまう。 	ガスケットの破損。 高圧バルブ破損。 高圧側バルブに異物のかみこみ。	コンプレッサ Assy 交換。

異音チェック

故障診断

異常現象	状況	推定原因	処置
コンプレッサの異音	1. ガタガタ音 (金属のたたき音がする。)	① 摺動部 ② 部品の破損 ③ 異物のかみ込み	・コンプレッサ交換
	2. コンプレッサOFF時 チリチリ音がする。	マグネット クラッチの 接触音	・フランジとプーリの隙間調整
	3. ガラガラ音	マグネット クラッチの ベアリング音	・プーリ交換
	4. ウォーン、ウォーン という音がする。	コンプレッサのうなり音	・コンプレッサの取付ボルトなど増締め する。
アイドルプーリおよびクランクプーリの異音	1. ガラガラ音	アイドルプーリのベア リング音	・アイドルプーリ交換
	2. カタカタ音	クランクプーリの音 (アイドルリング時とか、 急加速時に出る。特に コンプレッサがONし た時に音が大きくなる のでコンプレッサ音と まちがしやすい)	・交換または(外観上損傷なければ増締め)
Vベルトからの異音	1. キューという連続音	Vベルトがゆるんでいる (ベルトの振れも大きい)	・ベルト張直しまたは交換
	2. チュツ、チュツとい う断続音	プーリアライメントが ずれている。 (ベルト側面の摩耗が 大きい)	・プーリアライメントの確認・修理 ・ベルト交換
部品取付け部からの異音	ガーガーという連続音 (触れるとガタガタする)	① 固定ボルト類の脱落 ゆるみ ② ブラケット類の破損	・正規締付状態にする ・ブラケット類交換

*クランクプーリのゆるみ、コンプレッサブラケットのゆるみ、破損等はよくコンプレッサの異音とまちがえられるので注意する。

冷媒の抜きかた

注意

- ・目がね着用のこと。
- ・火気厳禁。
- ・換気を十分にすること。
- ・回収機の使用方法に従い、作業を行うこと。

①図のようにマニホールド ゲージをセットする。
(高圧側は3/8"を使用すること)

②チャージ ホースを回収機の回収口にセットする。

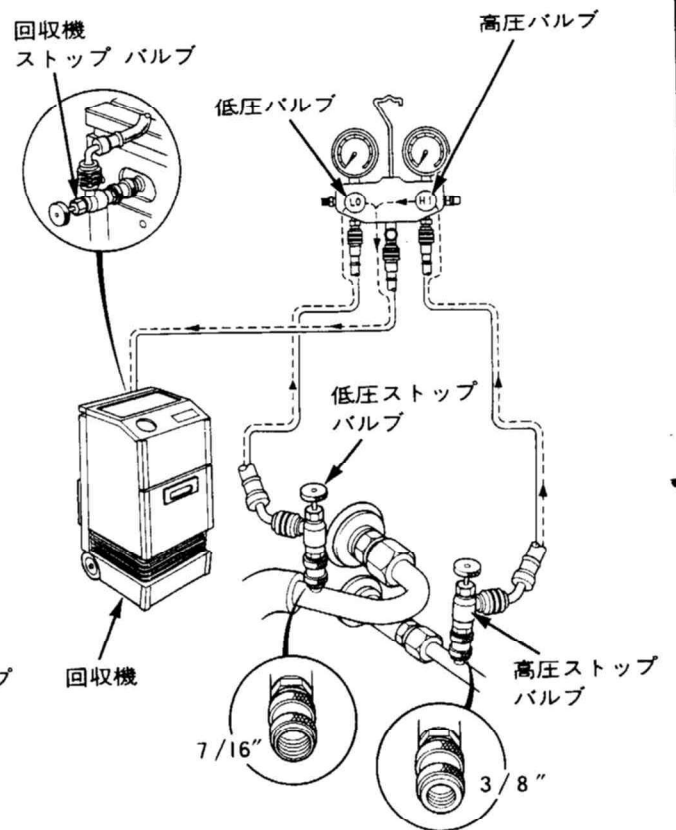
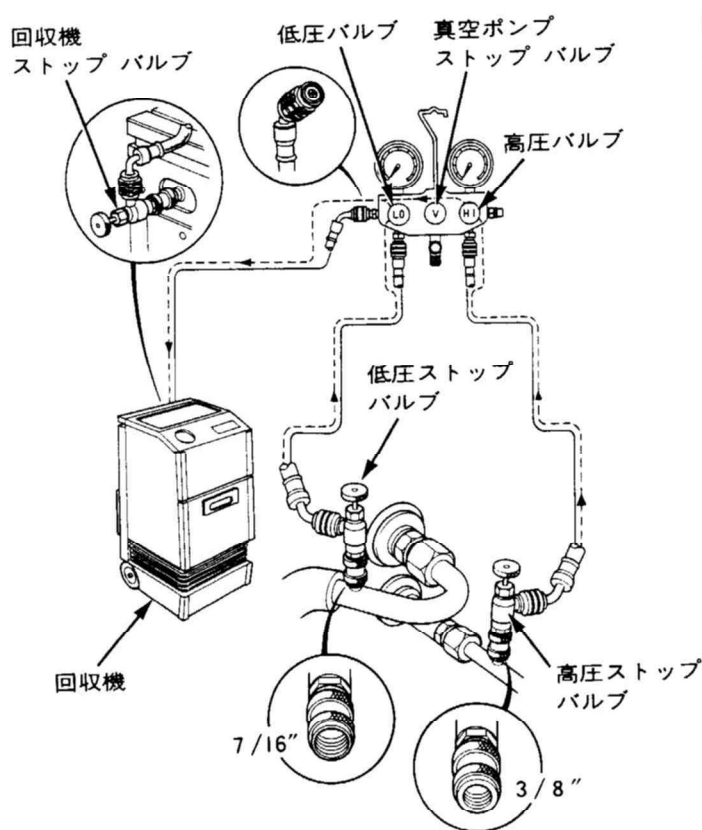
③空の回収タンクをセットした後、ストップ バルブ、高低圧バルブ、高低圧ストップ バルブ、真空ポンプ バルブ (2バルブ マニホールド ゲージは真空ポンプ ストップ バルブ)開き、冷媒を回収する。

注意 エンジンは停止すること。

④回収作業終了後、ストップ バルブ、高低圧バルブ、高低圧ストップ バルブ、真空ポンプ バルブ(2バルブ マニホールド ゲージは真空ポンプ ストップ バルブ)を閉じ、回収機よりチャージ ホースを外す。

(3バルブ マニホールド ゲージ)

(2バルブ マニホールド ゲージ)



コンデンサ

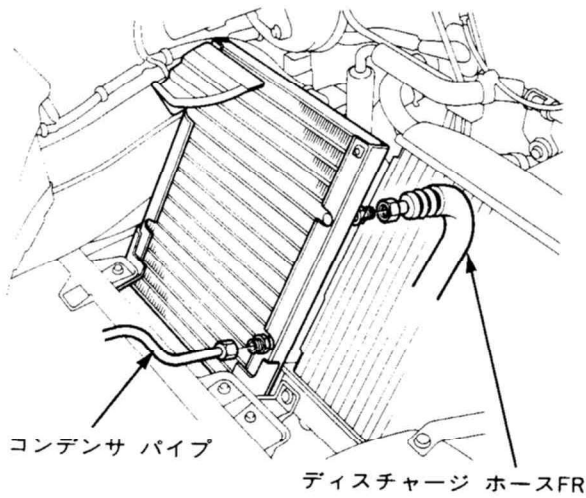
脱着

注意

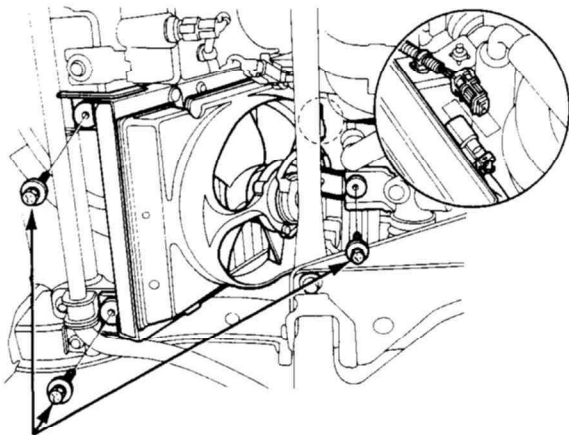
- ・ホース、パイプを取外した後は、直ちに接続部を盲栓またはビニールテープを用いて封をする。
- ・作業中はコンデンサのフィンに損傷を与えないこと。

★コンデンサ フィンの変形は、マイナスドライバー等で修正する。

- ①冷媒を回収する。(15-40頁)
- ②スペアタイヤを外し、
- ③コンデンサパイプ、ディスチャージホースFRの接続を外す。



- ④コンデンサファンカバーを外す。
- ⑤車体をリフトアップし、アンダカバー取付けボルト(6)を外し、カバーを取外す。
- ⑥車体下側よりコンデンサ取付けボルト(3)を外し、コンデンサを取外す。



注意 コンデンサを新品と交換した場合は、コンプレッサオイル(スニソ 5GS)を10cc追加する。

取付けは取外しの逆手順で行う。

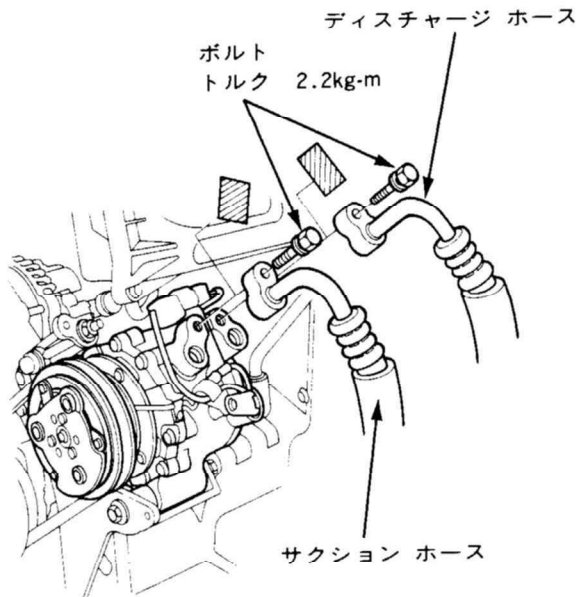
取付け後は真空引き→冷媒の封入→性能テストを行う。

コンプレッサ

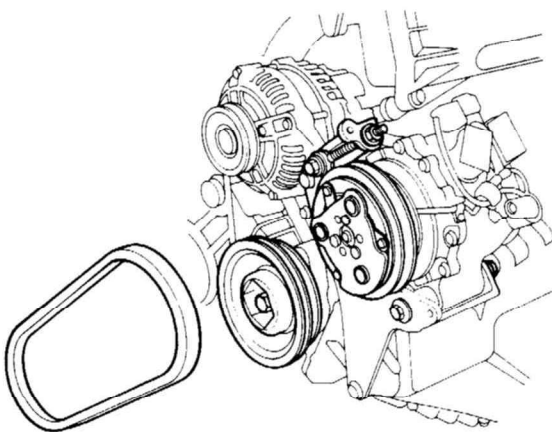
脱着

- ①エンジンをかけ、A/CスイッチをONし、システムを数分間運転する。
- ②A/CスイッチをOFFし、エンジンを停止する。
- ③冷媒を回収する。(15-40頁)
- ④リヤメンテナンスリッドを外す。
- ⑤サクション、ディスチャージホースの接続を外す。

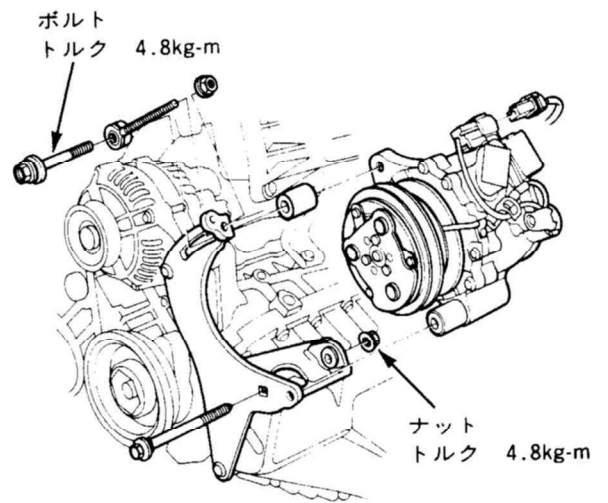
注意 接続を外したら、直ちに接続部を盲栓またはビニールテープ等で封をする。



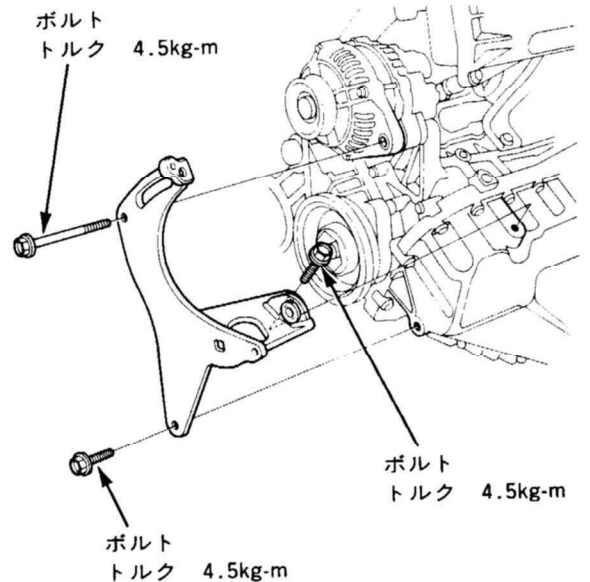
- ⑥A.C.G.ベルトを外し、コンプレッサベルトを外す。



- ⑦コンプレッサ取付けボルトを外し、コンプレッサを取外す。



- ⑧コンプレッサブラケット取付けボルト(3)を外し、コンプレッサブラケットを取外す。



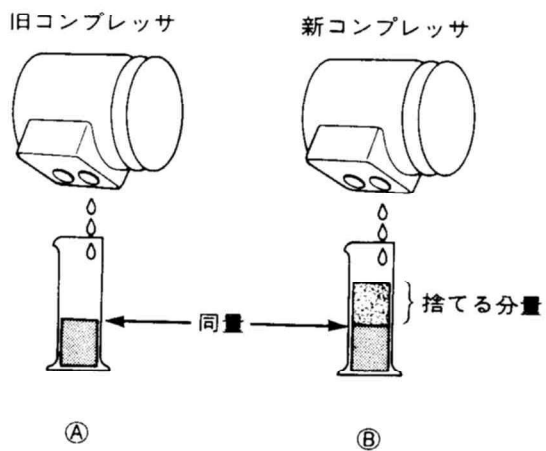
取付けは取外しの逆の手順で行う。

注意

- ・コンプレッサ本体は分解しない。
- ・コンプレッサ ベルトのたわみ量の調整を行う。(3章)
- ・各 부품のオイル補充は必ずコンプレッサの低圧側から行うこと。

☆コンプレッサ交換時のオイル調整

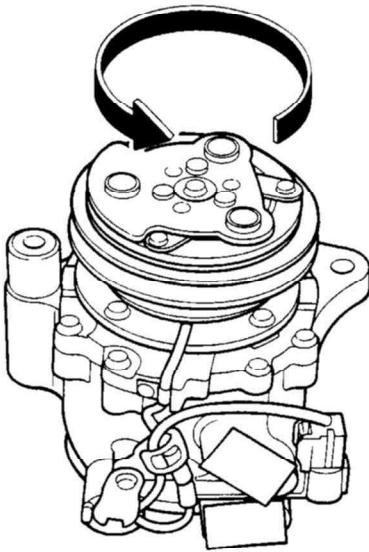
- 1) 2本のメスシリンダを用意する。
- 2) 取外した旧コンプレッサよりメスシリンダ①にオイルを抜き取る。
- 3) 新品のコンプレッサより別のメスシリンダ②にオイルを抜き取る。
- 4) メスシリンダ①のオイル量だけをメスシリンダ②に残し、余りを捨てる。
- 5) メスシリンダ②のオイルを新コンプレッサに封入する。



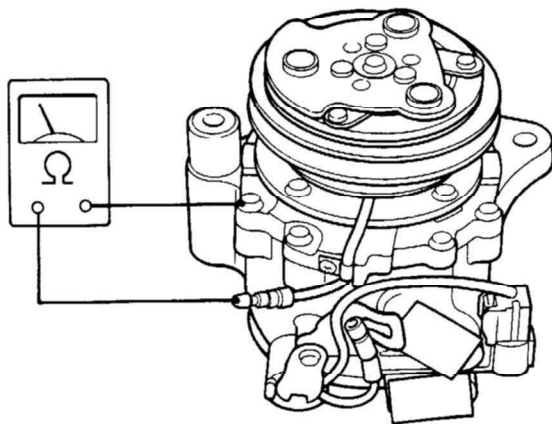
コンプレッサ

クラッチの点検

- ①リヤ メンテナンス リッドを取外す。
- ②エア クリーナ ケースを取外す。
- ③コンプレッサ取付けボルトを外し、コンプレッサを取外す。
*ディスチャージ、サクション ホースは外さない。
- ④ホースにむりがかからないようにコンプレッサをトランク内に引き出す。
- ⑤クラッチ ロータを回転させ、ベアリングのガタ、かじりがないか点検する。
不具合があれば、クラッチ ロータを新品に交換する。



- ⑥コードとコンプレッサ本体にサーキット テスタを当てて、コイルの抵抗値を測定する。
抵抗値 $2.9 \pm 0.15\Omega$ (20°C)
規定から外れている場合は、クラッチ コイルを新品に交換する。

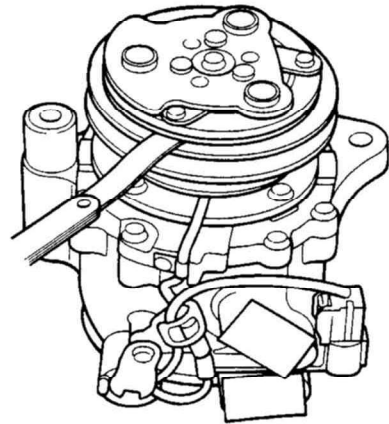


- ⑦クラッチ ロータとアマチュアの隙間を全周にわたって測定する。

隙間：0.35～0.65mm

規定から外れている場合は、アマチュアを取外し、シムを交換して調整する。

*シムの厚さは、0.1mm、0.2mm、0.3mm、0.5mmの4種類あり、0.1mmは微調整用である。

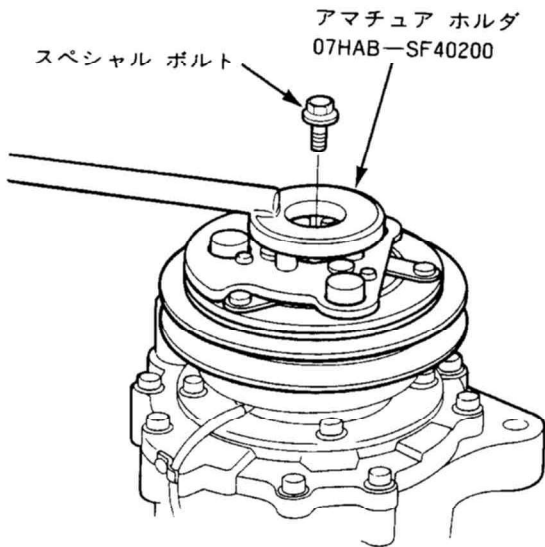


クラッチの取外し

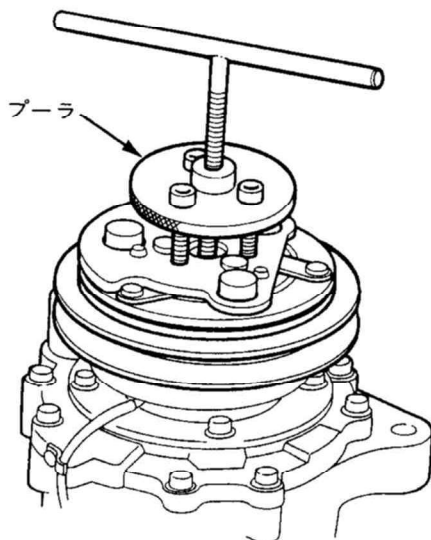
- ①リヤ メンテナンス リッドを取外す。
- ②エア クリーナ ケースを取外す。
- ③コンプレッサ取付けボルトを外し、コンプレッサを取外す。

*****ディスチャージ、サクシオン ホースは外さない。

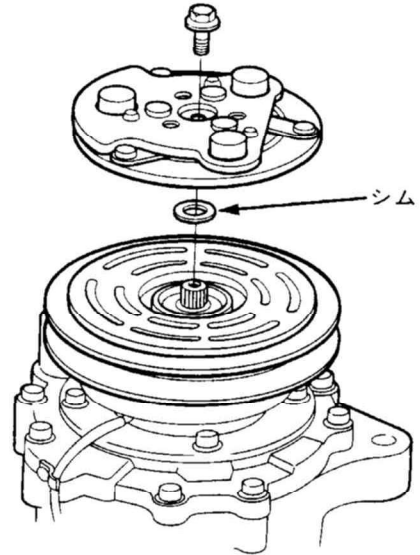
- ④ホースにむりがかからないようにコンプレッサをトランク内に引き出す。
- ⑤アマチュア ホルダをアマチュア プレートにセットし、インパクト レンチを使用してスペシャル ボルトを取外す。



- ⑥アマチュアを手で引き上げて取外す。
手で取外せない場合はアマチュアにプーラを取付け、センタのボルトをネジ込み取外す。

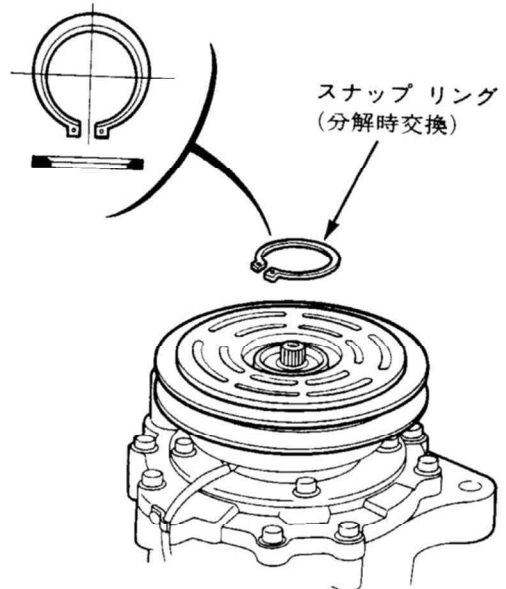


- ⑦シャフト ベアリングとアマチュア ハブの間に使用されているシムを取外す。



- ⑧スナップ リング プライヤを使用して、スナップ リングを取外す。

*****スナップ リング脱着時、コンプレッサ本体のボス部を損傷させないようにすること。



コンプレッサ

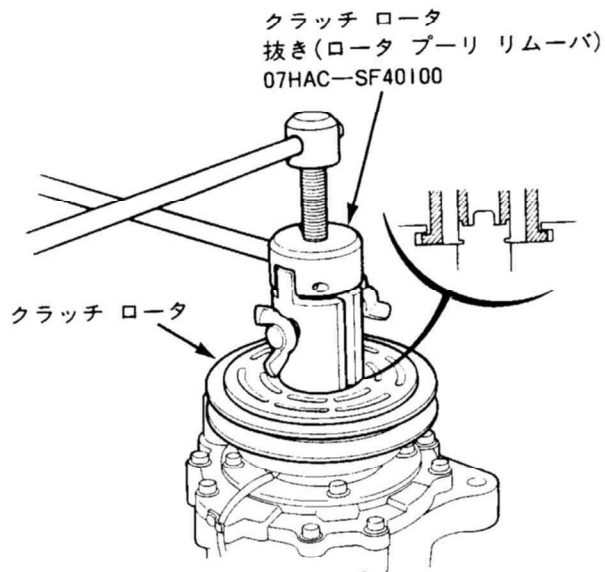
クラッチの取外し

⑨クラッチ ロータ抜き工具を取付けてクラッチ ロータを取外す。

*****工具中央のネジを一杯に戻し、両サイドの蝶ネジをゆるめた状態でロータにセットし、両サイドの蝶ネジを手で締付けて、先端の爪をロータ内側の溝に固定する。

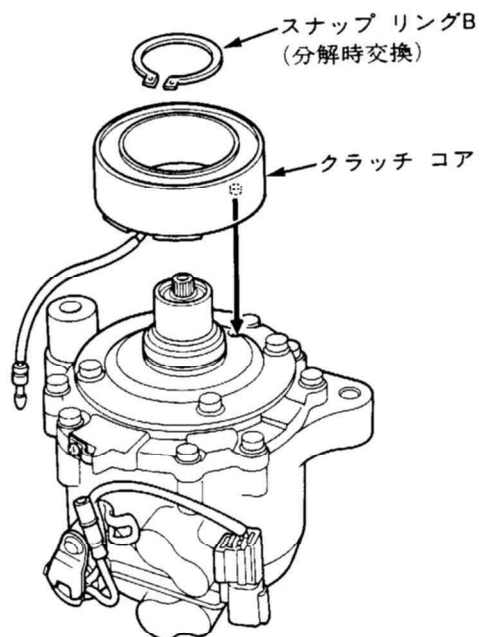
注意 クラッチ ロータを再使用する場合は、手で回転させベアリングの異音、ガタ、引っかかり等異常のないこと。

異常がある場合は、クラッチ ロータを交換する。



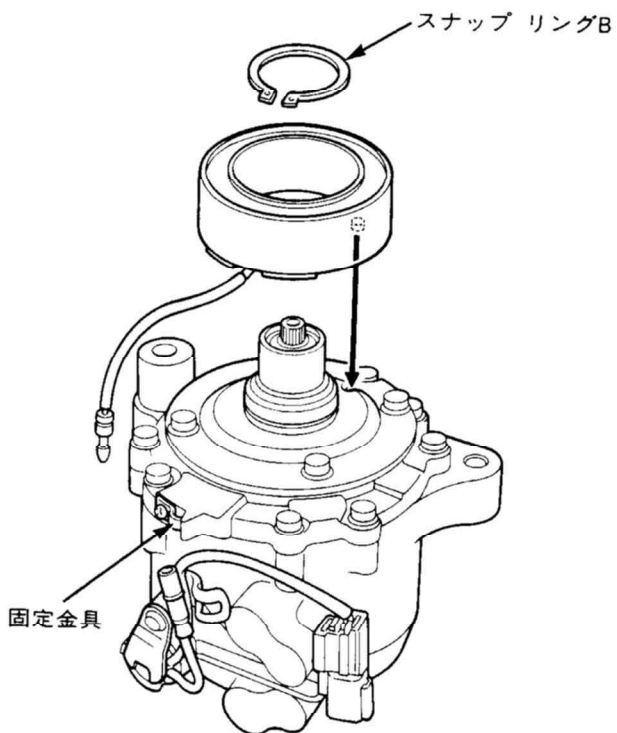
⑩リード線固定金具をゆるめリード線を外す。

⑪スナップ リング プライヤを使用してスナップ リングBを取外し、クラッチ コアを取外す。



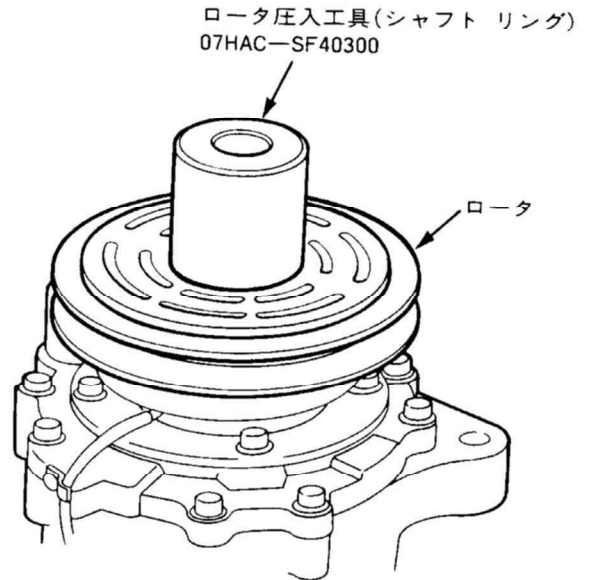
クラッチの取付け

- ①クラッチ コアの位置決め部(凸)とフロント ボス切り欠き部(凹)を合わせクラッチ コアをフロント ボスにセットする。
- ②新品のスナップ リングBでクラッチ コアを固定し、クラッチ リード線を固定金具でフロント プレートに固定する。

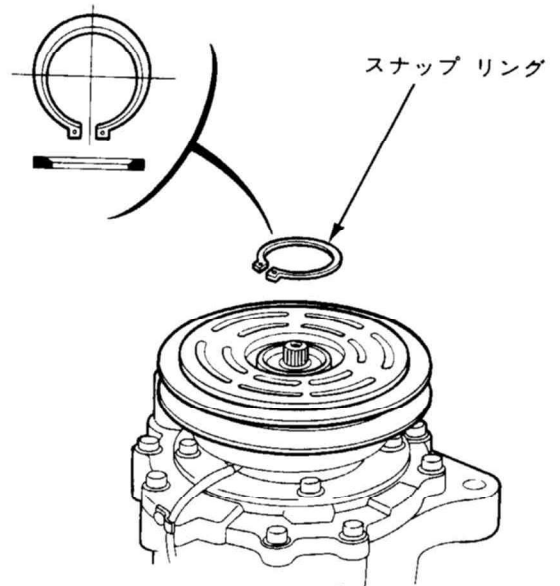


- ③ロータ圧入工具を用いてロータを圧入する。

注意 圧入の際、ベアリングは必ずインナ レスを押して圧入すること。



- ④ロータを新品のスナップ リングで固定する。

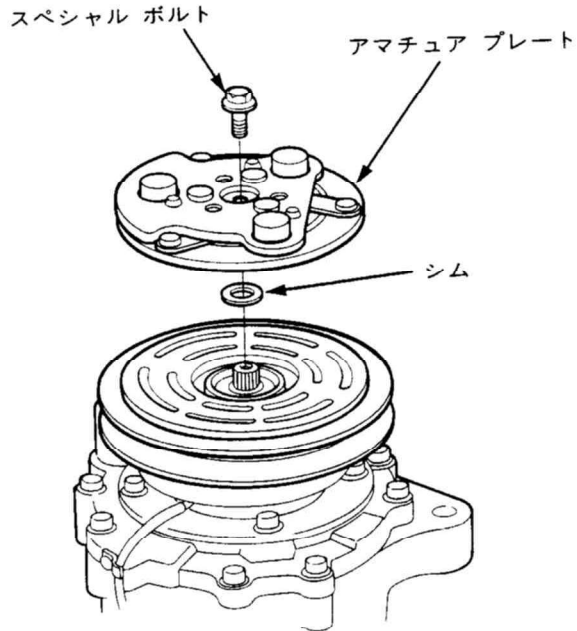


コンプレッサ

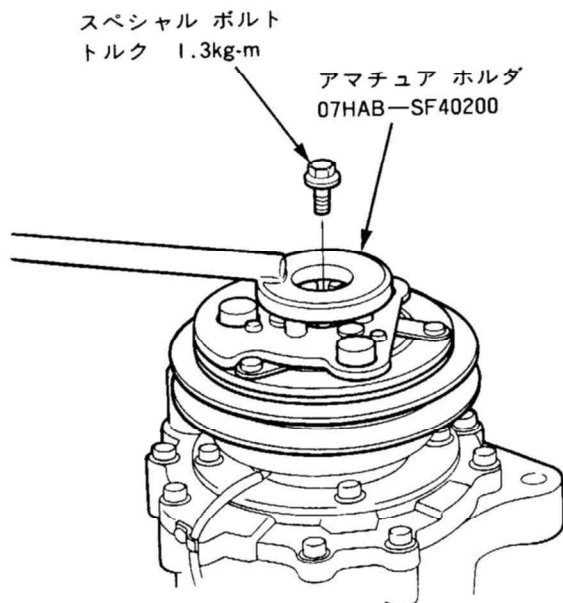
クラッチの取付け

- ⑤ クランクシャフトにシムを取り付けて、アマチュアプレートを組付ける。

★ シャフトとアマチュアの切り欠き部を合せて組付ける。

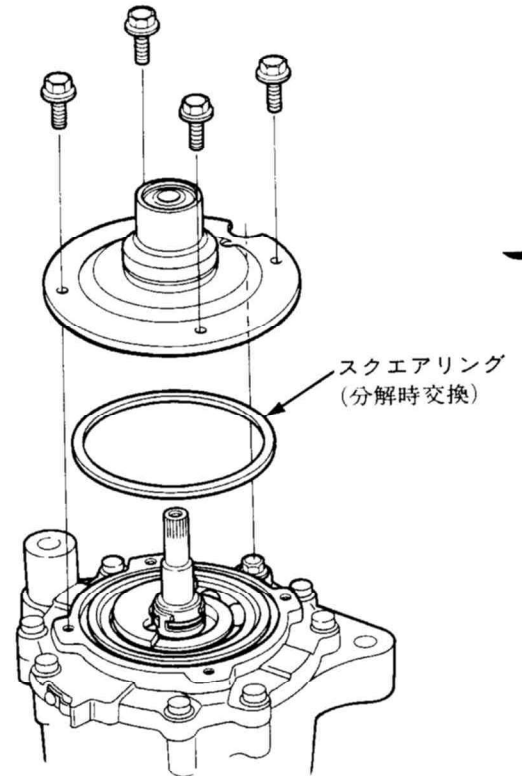


- ⑥ アマチュアホルダを用いてアマチュアを固定し、スペシャルボルトを締付ける。

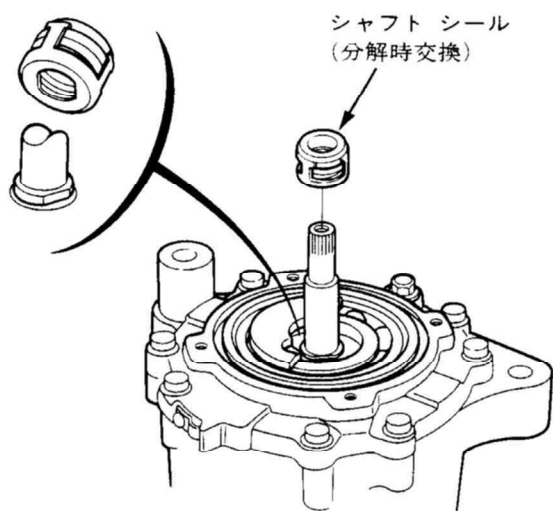


シャフトシールの取外し

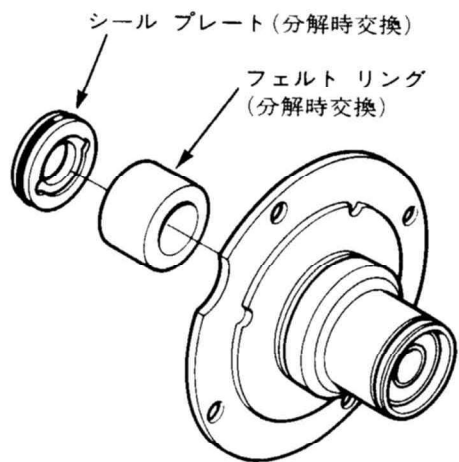
- ① アマチュア、ロータ、クラッチコアを取外す。
② フロントボス固定ボルト(4)を外す。
③ フロントボスを上方に引き上げて取外し、スクエアリングも取外す。



④シャフト シールを上方に引き上げて取外す。



⑤シール プレート をフロント ボスより外し、内側のフェルト リングを取外す。



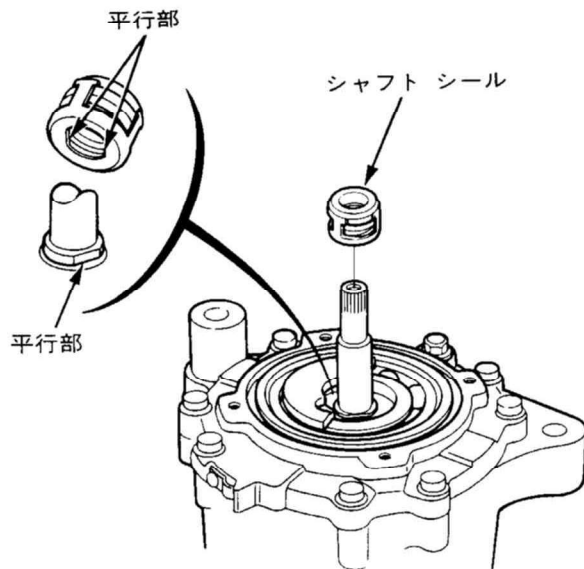
コンプレッサ

シャフト シールの取付け

- ① シャフト シールを洗淨液で洗淨する。
- ② シール全面に冷凍機オイル(スニソ5GS)を塗布する。
* 冷凍機オイルは異物の混入や汚れのないものを使用する。
オイル塗布後、シール面には手を触れないこと。
- ③ シャフトに冷凍機オイルを塗布する。
- ④ シャフト シールの平行部とシャフトの平行部を合せて組付ける。

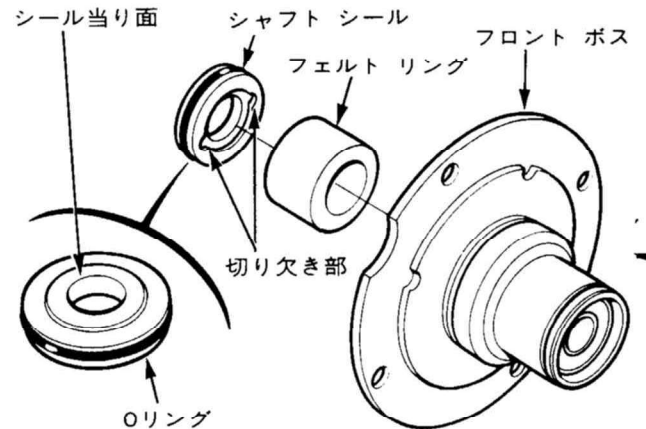
注意

- ・シール面は指で触ったり、他のものと接触させない様に注意する。
- ・取付時シールにゴミなどの異物が付かない様に注意する。
- ・シャフト シール交換時は、フェルト リング シール プレート、Oリングをセットで交換する。

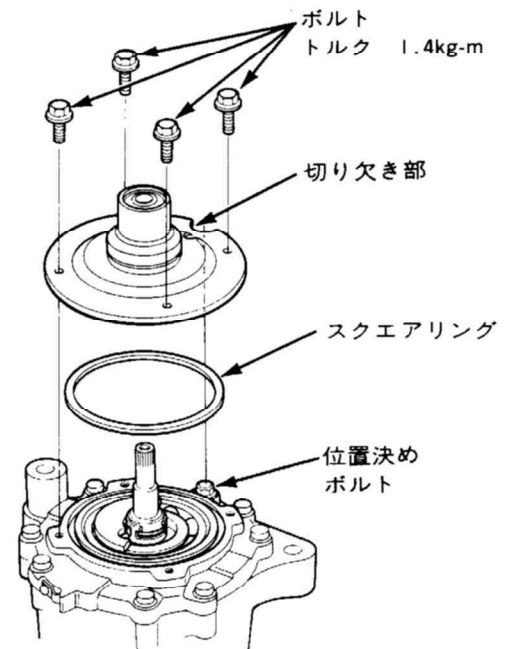


- ⑤ フェルト リングとシール プレートをフロント ボスに取付ける。

- * シール プレートの切り欠き部をクラッチ側に向けて取付ける。
- ・シール プレートのOリング部に冷凍機オイル(スニソ5GS)を塗布する。
- ・シール プレート取付後、シャフト シール当り面の汚れを取り冷凍機オイルを塗布する。



- ⑥ スクエアリングをフロント エンド プレートの溝にセットし、フロント ボスの切り欠き部をフロント エンド プレートの位置決めボルトに合わせて、スクエアリングをずらさないように取付ける。

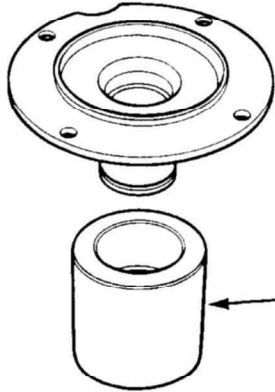


- ⑦ クラッチを取付ける。(15-47頁参照)

シャフト ベアリングの交換

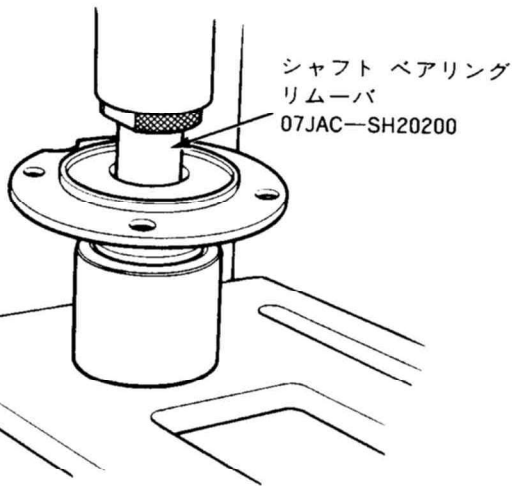
取外し

- ①アマチュア プレート、ロータ、クラッチ コアを取外す。
- ②フロント ボスを取外し、シール プレート、フェルト リングを取外す。
- ③フロント ボスのシール プレート挿入側を上にし、ロータ圧入工具にセットする。



ロータ圧入工具
07JAC-SH20300

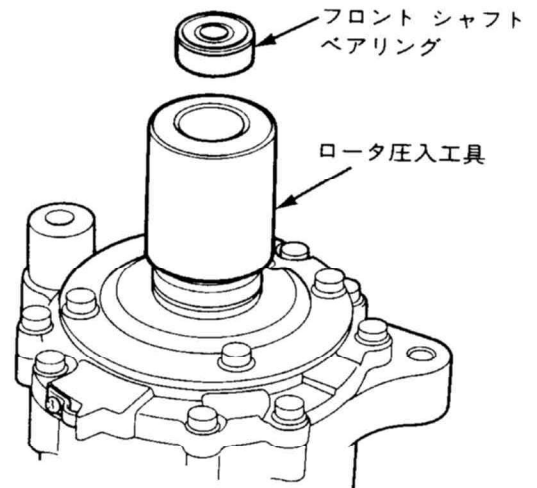
- ④フロント ボスの上からシャフト ベアリング リムーバを入れ油圧プレスで静かに抜き取る。



シャフト ベアリング
リムーバ
07JAC-SH20200

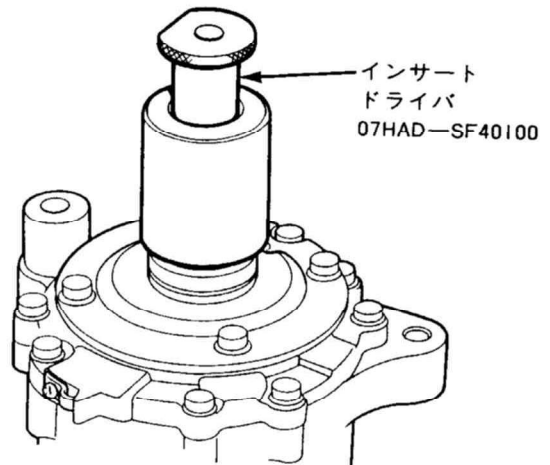
取付け

- ①シャフト シール、シール プレート、フェルト リングを組立後、フロント ボスを、コンプレッサへ取付ける。
- ②コンプレッサに取付けたフロント ボスにロータ圧入工具をセットし、フロント シャフト ベアリングをセットする。



フロント シャフト
ベアリング
ロータ圧入工具

- ③インサート ドライバをセットし、油圧プレスで静かに圧入する。



インサート
ドライバ
07HAD-SF40100

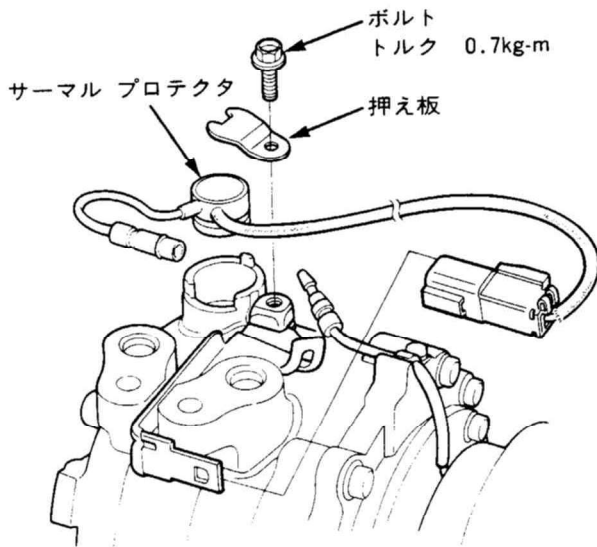
注意 シャフト ベアリングは、シャフト段差が、突当てですので絶対に無理な力で圧入しないこと。

- ④クラッチ コア、ロータ、アマチュア プレートを取付ける。

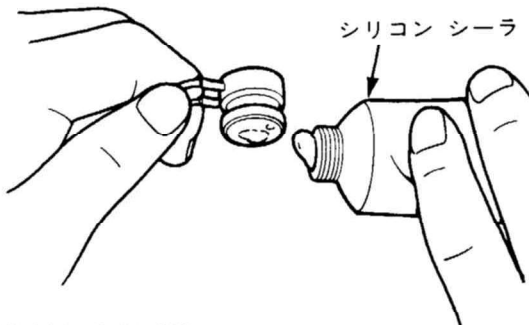
コンプレッサ

サーマル プロテクタの交換

- ①サーマル プロテクタ押え板固定ボルトを外し、押え板を取外す。
- ②サーマル プロテクタとクラッチ コアのリード線の接続を外し、サーマル プロテクタのリード線を持って引き抜く。
- ③コンプレッサのサーマル プロテクタ受部のシリコン シーラを取り除く。



- ④新しいサーマル プロテクタの感温部に、シリコン シーラを塗布し、コンプレッサに組込む。
(シリコン シーラ：信越シリコンKE-347W)

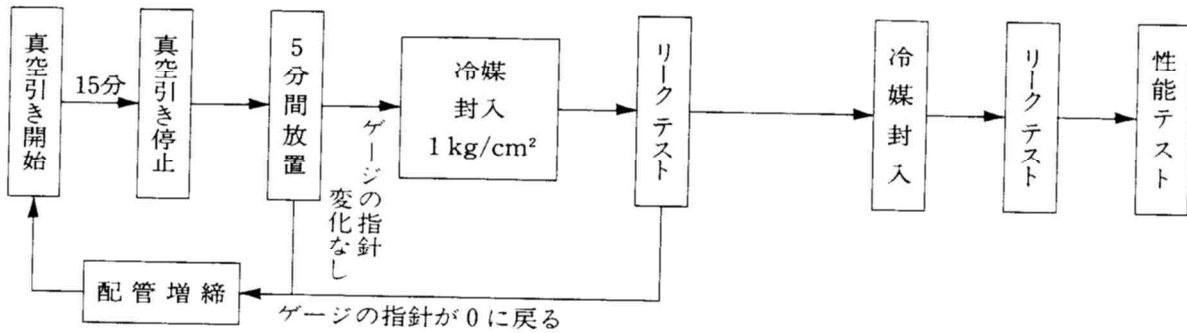


★塗布量：0.15g前後
(直径10mm程度)

真空引き

冷房サイクル内に空気が残留すると、高圧圧力の上昇、金属腐蝕、エキスパンションバルブのつまりなどの弊害が生じるため、冷房サイクルのラインを外した時は空気を完全にサイクル内から取り出す必要がある。これを真空引きという。

真空引き要領

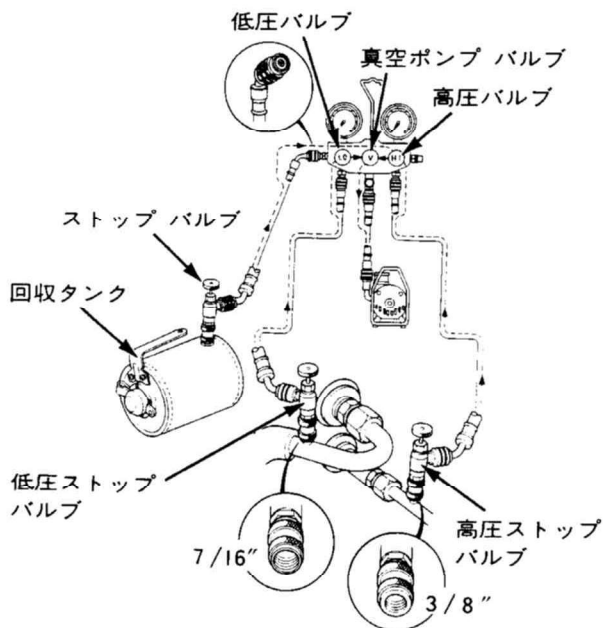


真空引き

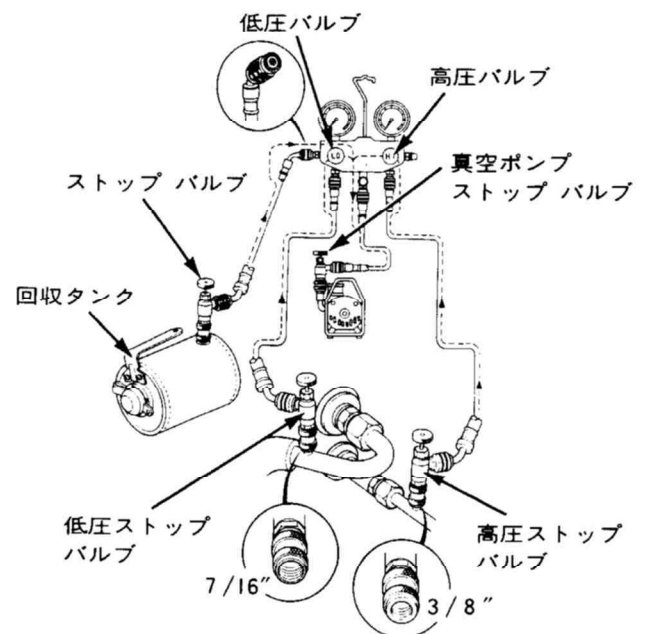
- ① マニホールドゲージを下図の様に接続する(高圧側は、3/8"を使用すること)。
- ② エアパージバルブにチャージホース(ストップバルブ付)と回収タンクを接続する。
*ストップバルブは開けないこと。
- ③ 高低圧バルブ、高低圧ストップバルブ、真空ポンプバルブ(2バルブマニホールドゲージは、真空ポンプストップバルブ)を開ける。真空ポンプを動作させ、低圧ゲージの目盛りが真空度700mmHg以上に到達してから約15分間真空引きを続ける。

- ④ 高低圧バルブ、真空ポンプバルブ(2バルブマニホールドゲージは真空ポンプストップバルブ)を閉じる。
- ⑤ 5分間放置しゲージの針に変化がないことを確認する。ゲージの針が0に戻る時には配管、チャージホース類の増締めを行った後再度真空引きをする。
- ⑥ 増締めを行ってもゲージの針が0に戻る時は、配管ジョイント部Oリングの有無、傷をチェックする。

(3バルブ マニホールドゲージ)



(2バルブ マニホールドゲージ)



リーク テスト

★真空引きを行った後に、下記の作業を行う。

①真空ポンプバルブ(2バルブ マニホールド ゲージは真空ポンプストップバルブ)を閉じる。

②回収タンクのストップバルブを開ける。

★回収タンク チャージロを上に向ける。

③高圧バルブを開き、低圧ゲージが1 kg/cm²になるまで回収冷媒を封入する。

★低圧バルブは閉じておくこと。

④高圧バルブを閉じる。

⑤リーク テスタを使用し、ガス漏れをチェックする。

★特に各配管の接続部、コンプレッサ、コンデンサ、及びヒートタンク廻りを重点的に行う。

注意

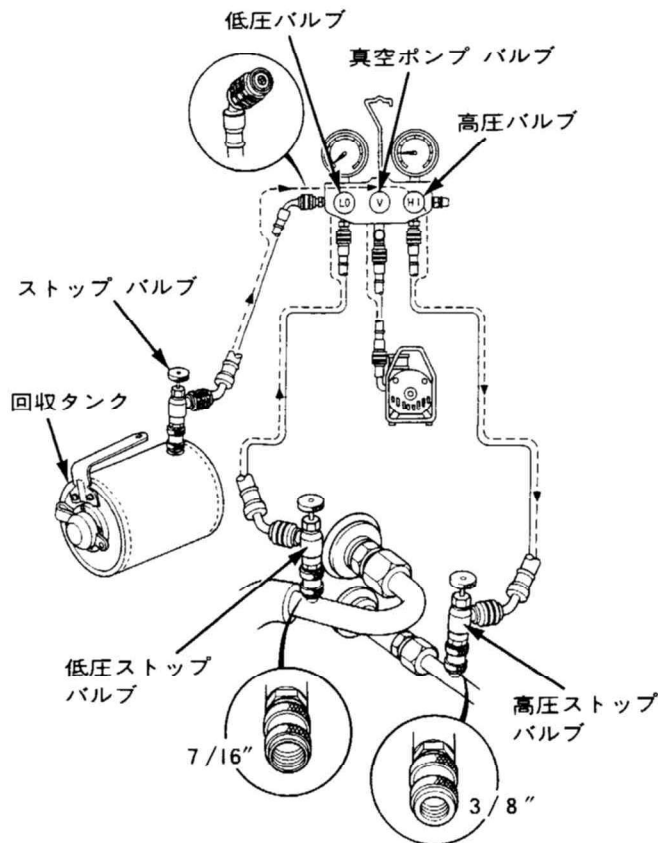
- ・ガソリン等の引火に注意する。
- ・燃焼ガス(有毒)を吸わないこと。

⑥漏れのある場合は増締めする。

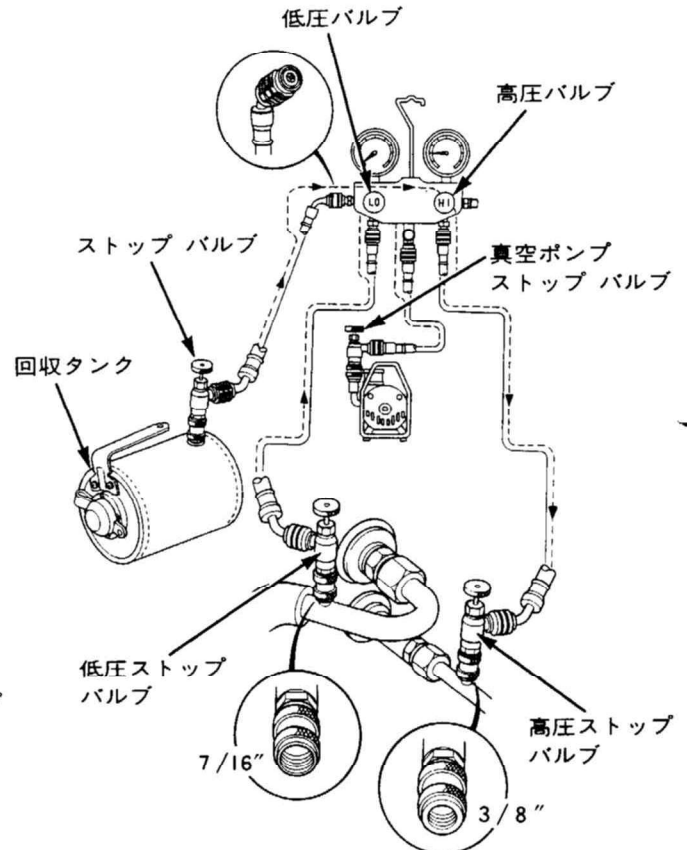
⑦再度リーク テスタを使用し、ガス漏れチェックを行う。

⑧漏れのある場合は、配管ジョイント部のOリングの有無、傷をチェックする。

(3バルブ マニホールド ゲージ)



(2バルブ マニホールド ゲージ)



冷媒の封入

①リークテスト後、高圧バルブが閉じていることを確認し、エンジンを始動させる。

注意 エンジン回転は、1,500rpm以下にすること。

②温度調節ダイヤルをCOOL最大に、内外気切換スイッチを (内気循環) にモードコントロールスイッチを にセットし、ファンスイッチを最大にする。

フロントドア、フロントドアガラスは全開にし、他は全閉する。

③低圧バルブを開いて、冷媒を封入する。

注意

- ・高圧バルブは開けないこと。高圧バルブを開けると、高圧ガスが逆流し、回収タンクが破裂する。
- ・回収タンクをさかさまにしないこと。
- ・冬場など回収冷媒が入りにくい時は、回収タンクを35°C以下のお湯で暖めると入りやすくなる。

④回収冷媒を全量封入する。

規定冷媒封入量：650± $\frac{10}{100}$ g

規定冷媒封入量(g) - ※回収冷媒量(g) = 補充冷媒量(g)

※回収冷媒量：

回収後回収タンク重量 - 封入後回収タンク重量

⑤冷媒封入完了後、低圧バルブ、オープナを閉じ、インスペクションデータによりシステムの性能の良否を判断する。

⑥高圧ストップバルブを閉じる。

⑦低圧バルブを開け、高圧バルブを徐々に開き、高低圧ゲージが同圧になったら、低圧ストップバルブを閉じエンジンを止める。

⑧リークテストを使用し、ガス漏れチェックを行う。

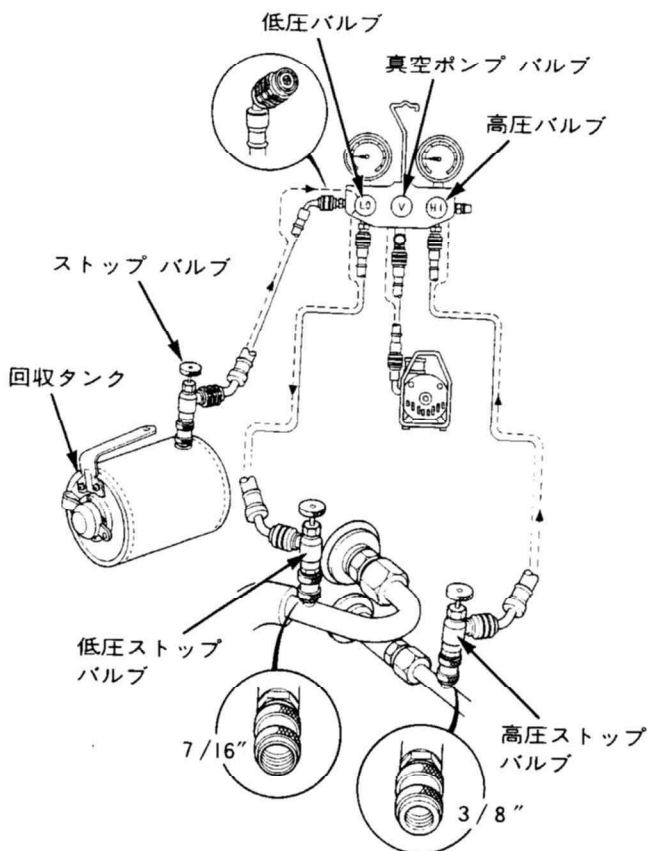
★特に各配管の接続部、コンプレッサ、コンデンサ、及びレシーバタンク廻りを重点的に行う。

注意

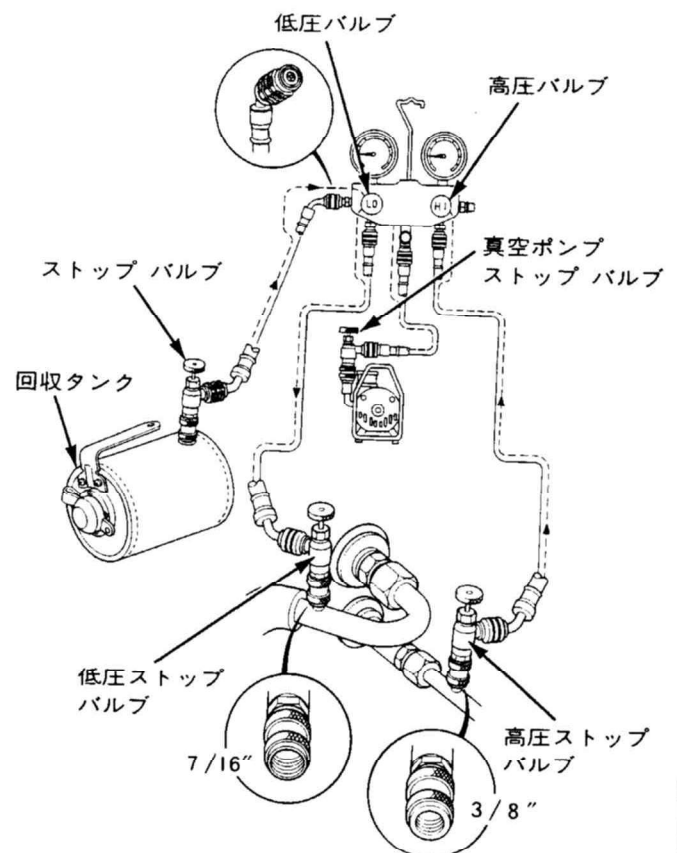
- ・ガソリン等の引火に注意する。
- ・燃焼ガス(有毒)を吸わないこと。

⑨性能テストを行う。

(3バルブ マニホールド ゲージ)



(2バルブ マニホールド ゲージ)



SRSエアバッグ システム-タイプII(エレクトリカルを整備するにあたって)

この車にはタイプによりSRSエアバッグ システムが採用されている。SRSエアバッグ システムの整備作業を正しく、安全に行うための情報は、本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」にすべて記載してある。

なお、SRSエアバッグ システム以外の整備作業を行うにあたり、SRSエアバッグ システム関連で注意を必要とする項目については、目次に*マークで示してある。

したがって、これらの項目の整備作業は本サービス マニュアルの「16章、SRSエアバッグ システム」のワイヤリング図等を参照し、SRSエアバッグ システムに影響を与えないよう注意して行うこと。

注意

- SRSエアバッグ システムの整備は必ずホンダ販売店で行う。
- SRSエアバッグ システムについて、正しい整備作業を行わなかった場合、または不適正な部品の交換作業を行ったりするとエアバッグが誤作動をしてけがをすることがあるので、十分注意をすること。
- SRSエアバッグ システムのすべてのワイヤ ハーネスには、黄色のカバーを施してあり、他のシステムと区分けをしています。これらは、ステアリング コラム、インストルメント パネル内に配線されている。したがって、下記のような場合はSRSエアバッグ システムに影響を与える恐れがあるので、必ずホンダ販売店に相談すること。

～ハンドル付近の修理。

{ ハンドル中央部にはSRSユニット(衝撃感知用センサ)、インフレーター等が取付けられているため、強い
衝撃を与えないよう充分注意して下さい。 }

～インストルメント パネル右裏側及びヒューズ ボックス付近のワイヤ ハーネス関連の修理。